

写真で演じるヴィジュアル・マガジン——隔月刊

演劇ぶっく

E N G E K I B O O K

創刊2号
500yen

Stage photograph

夢の遊眠社・横浜ホートシアター・青い鳥・モンテカルロバレエ団・状況劇場・シカゴ演劇祭・タムタイプシアター・遠藤ミチロウ・バリマリニイ劇場

Interview

野田秀樹×大地真央Ⅱ「十二夜」

シェイクスピア

Interview

7年ぶりの舞台へ 根津甚八

Interview

蜷川幸雄・斎藤晴彦・中村橋之助・白鹿社大須賀勇

制作・ノート

第三エロチカ川村毅

新連載

リレー・フリー・スペース

自転車キンクリート





復活ノ根津甚八 インタビュー	4
若きアビマニユの死 横浜ポートシアター	8
いつか見た夏の思い出 青い鳥	12
ねじの回転 状況劇場	14
タイタニック沈没 68/71黒 TENT	16
斎藤晴彦 インタビュー	17
睡眠の計画 ダムタイプシアター	18
ひばりと寝ジャカ 白虎社	20
冒険、踊り、出前なんです 大須賀勇 インタビュー	21
男ばかりのバレエ団 トロカテロ・デ・モンテカルロバレエ団	24
第一回シカゴ演劇祭実況報告	26
ハーレム・ミュージカル観戦記 河口仁	28
パリーダカール面白ラリー 橋本克彦	29
大地真央リサイタル カフカの夢	30
シェイクスピア×野田秀樹×大地真央=!?	32
野田秀樹・大地真央 インタビュー	33
夢の遊眠社 代々木体育館公演 彗星の使者	34
オデッセイ・1986・破産 遠藤ミチロウ×蛭川幸雄	36
朝倉摂ビジュアル・パフォーマンス 階段狂	38
オイディプス王	40
吹けよ東風!!俺はアジアの自閉症 その1 蛭川幸雄インタビュー	39~41
スワンソングが聴こえる場所 第三舞台	42
リレー・フリー・スペース 自転車キンクリート	44
オーストリア・ブレゲンツ野外劇場	46
パリ・マリニ劇場 ナポレオン	47
パフォーマンス・ファイル ゴールデン・ウィンドウズ	48
ラスト・フランケンシュタイン制作ノート 第三エロチカ川村毅	50
第三エロチカかがやくスターたちとおすすめ人 小林恭二	52
夜の魚 銀色昆虫館	54
さよならジャパン・空の賦 白髪小僧	55
四国こんびら歌舞伎大芝居	56
義経千本桜 中村橋之助インタビュー	58

Main Dish 上杉清文+田口智朗 三上寛+岡部かびん	60
山崎哲+河口仁 京大講堂+梅本承平	
ランダム・アクセス 田村泰二郎・こんにやく座・ブリキの自発団・万有引力	
時々自動・転位21・秘法9番館・浪比佐子	64
小劇場演劇の軌跡② 1969年の衝撃 扇田昭彦	68
プランニング・ニュース 夏の演劇祭特集	72
フロムリーダーズ・フロムエディタース	74

七年振りに、サム・シェパード作「フル・フオー・ラブ」に主演
舞台に復帰した根津甚八へインタビュー

復活！根津甚八

インタビュー■山口猛
写真■宮内勝

「苛酷さ」に心惹かれて



根津甚八に会って、話をするのは、十年振りのことだった。会ったといえ、三年前、キネマ旬報のパーティで、「さらば、愛しき大地」の主演男優賞を取った彼と久しぶりに顔を会わせたことがあったが、その時は、ろくに話も出来なかった。根津とは、状況劇場時代同じ時代を過ごした仲間、というより先輩に当たっていた。唐十郎という天才的な人物の周りに、特権的肉体を引き上げた磨赤児、李札仙、大久保鷹、不破万作と、キラ星のように、役者群が集まり、力関係は、唐との距離にあり、一種の封建制度の中で、劇団としては、異様な力を生み出していたのだ。

根津は、その中で、ある清涼剤としての、少年の雰囲気を持っていた。そんな彼が、劇団を辞めてから、スターになった経緯というのは、よく知られているところであろう。

当日、彼は、ロバート・アルトマン監督の同名映画をみて、その直後にこのインタビューは行われた。

「感情の格闘技」としての舞台

—— 映画はどうでした？
根津 うん、よく出来てた。ただ、後半、両方の母親の話になっていくとちょっと辛いね。回想のシーンはどうしても仕方ないから。

芝居を知ってる人はちよつと首をかしげちゃうみたいなのがあるけど、でもお父さんの処理とか、けっこう良かった。ただ、サム・シェパードは、ロデオマンというより、知性が克つてるといえるか。

—— 根津さんは状況劇場を退めてから、これが初めてなわけでしょう。それを、今年、7年ぶりにやるというのは、どういうことですか？

根津 やつぱりサム・シェパードの本を読んだのがきっかけだね。

—— 状況劇場時代はあまり読まなかった？
根津 読んでないっていうか、興味なかったね。読んでるのは唐十郎一色でしょう、あの

やつちやうんだものね。

—— 今回は翻訳劇でしょう。

根津 それは、あんまりこの本は関係ないんじゃないの。外人の名前がついてカタカナで呼ばれるけど、まあ、難しいこともあるんじゃないかと思うけど。

—— この演出が外人ですよ。

根津 その演出家、経歴見たら面白いんだけどね。本当はチーフカメラマンで、映画も撮ってるし、映像に身を置いている人で、大島渚の人と作品とかね、そういうのをフィルムにしたり、写真家としても評価されている。日本の演出家よりも、本来あるべき仕事のペースみたいなのでやっている人の方がいいんじゃないの。だからそういう意味ではうまくいくと思うんだよね。外人の、というか向うで仕事のペース持つてる人の方が、でないとやっぱりね……。うるさい人らしいよ(笑)。こたわる人らしい。

—— 通訳つきになりますね。

根津 そうだね。だから時間かかる。だけど一番頭を痛めたのは相手役。妹の役の人ね。それがちよつと日本にはいないんだよね。もう、これはオーディションにしようということとを、ぼくの方から言い出して。それで松居一代さんを選んだわけだけど、彼女は、本気でこれから一生この仕事していく情熱があるし、まあ無鉄砲なところ、というか、いきなり読んで「これやりたい」って言うバイタリテイというのかな。舞台って怖いからね、それでもやりたいって、そういうパワーみたいなものね。それに一番大きいのは、ある演技の回路みたいなものをほとんど持っていないのね、それがいいなあと思った。オーディションで集まった人達も、文学座の研究生とか桐朋学園とか無名塾とかね、それがもう面白くもない。もう見えちゃうわけ。ちよつとこなす人はいるんだけどね。



—— 要するにブラスアルファの部分がない。ということですね。

根津 魅力がないんだね。

—— 普通、だいたい演出家が立ち会うんだけれど、演出家が不在なわけでしょう。しかも、芝居の一種のリードオフマンみたいなことを、根津さんがやらなきゃいけないんじゃないですか。

根津 だから稽古が始まって、おそろく、そういう事になると思うよ。どうしても言葉の問題で、あるニュアンスみたいなものは伝わりにくいだろうから……。今度の芝居はいわば感情の格闘技みたいなね。そうすると日本人というのは、格闘技ってあんまりな



頃。

—— もう一度芝居をしたいという欲望が強くなったというのは何時頃から？

根津 はっきりしたきっかけというのは、別になんだけれど、ずっとあったことはあったね。どうしても自分の中で、かつての状況劇場と比較しちゃうからね。それとはまるで違う質の芝居か、似たような方向の芝居だとしたら、はるかに面白いものじゃないか、やっても仕方ないから。それと、漠然と思っ

ていたのは、映画チックな芝居というか、ちよつとした細かいセリフのやりとりなんかで、あるダイナミックな世界が出てくる、というもののね。そんなふうなものならって思っていた。ただ、以前ぼくのいたテント劇場って、構造が独特のものだったね。天幕一枚で区切られてたんだから。なにしろ寸前まで、近くのラーメン屋なんかでメシ食って、そのまますぐに、その日常の猥雑なものを引きずりながら、舞台へ乗っちゃって、パーツと

電話 (477) 5858
八二五
八二五



■横浜ポートシアター第6回公演

仮面劇「マハーバーラタ」

若きアビマニュの死

脚本・演出・仮面——遠藤啄郎

横浜ポートシアター公演予定
小栗判官・照手姫
9月17日水・18日木・19日金
藤沢・時宗総本山遊行寺境内
脚本・演出・仮面／遠藤啄郎
☎0466-34-8705 西条



●横浜ポートシアター写真集仮面のまなざし
——横浜ポートシアターの世界(仮題)が9
月に刊行の予定です。撮影はこのページの
写真を使っている岡本央さんです
お楽しみに
問い合わせ／オフィスナロド
☎044-611-7952 岩田



横浜ポートシアター全景
中華街と元町にはさまれた運河に浮かぶ、木造のダルマ船を改造した劇場。

■劇団青い鳥公演

いつかみた夏の思い出

作・演出——市堂 令



photo・青木 司

●公演データ
4月17日～5月11日
新宿シアタートップス
5月22日～5月25日
近鉄小劇場

●キャスト
上村 樹梨子
葛西 佐紀
木野 花
芹川 藍
南部 夜貴子
小林 洋子
伊沢 磨紀

プロローグ

どことは言えねど、深く暗い闇の中を、なぞとは言えねど、横切る者達あり。
何とは言えねど動くものあり、聞こえる音あり。目をこらし、息をこらしてよく見れば、深海とおぼしき中を、潜水具を身につけた者達が、何やら運び動かしている様子。やがて、海底のひとつの扉がかけられ、まぶしいばかりの光がさしこめる。そして動きまわる者達は、一人、又一人と光さす扉の中に消えてゆく。光がまたたく間に闇をおおいつくした時、そこに朝の教室が出現する。
陽のあたる坂道より、生徒が登校し始める。

第一場——ホームルーム——

生徒が一人、又一人と教室に入ってくる。一人で黙々と夏休みの宿題を写している者、ベチャクチャ夏休み中のできごとをおしゃべりしあう者、窓の外をながめている者、様々あり。

始業のベル。

H・R・T 菊池紀子登場。トレードマークのくつたくな笑い顔がとびこんでくる。

菊池(教師) おはよう!

全員 おはようございませう。

藤波 起立、礼! 着席。

菊池 みんな元気だった!?

生徒 はい!

菊池 では出席をとります。桂木秀子、

木下静江、斎藤妙子、伴礼子、藤

波朋子、どうだった、夏休みは。

生徒 (それぞれに反応)

(夏の思い出上演台本より)

●青い鳥の事務所が引っ越しました。新しい連絡先をお知らせします。
〒151 東京都渋谷区元代々木町2の9 村中ビル
☎03・4668・7333

●青い鳥は秋に新作を公演の予定です。

ねじの回転

作・演出 唐十郎



photo・羽永光利

■9月、11月に公演の予定

4月26日～6月1日
東京・新宿花園神社
●キャスト
唐十郎
李礼仙
御旅屋晩美
千野宏
六平直政
大野まみ
佐古雅貴
ほか

ノズルの栓をひねったのか、ノズルの口から水の気泡が溢れ、置かれた義手を真っ白にしてみましょう。(この炭酸ガスボンベを使うと、こうなるのは実験済みだ。な)

御手洗 (飛び出た目で覗いて見て) 動いてます! それでもこれは、動いています!

サチコ それじゃ、いつまでも、いつまでも、ねじを巻いてね。

後退り、ノズルからもう一つ、氷煙を吐かせる。ドオンッという音と共に、がらくたアパートの部屋は傾いてゆく。

サチコ (氷煙の中で) へまたね 拾った 誰かの手 使いきれても 暮らしきれない 迷い子のおまえへ

氷煙をもう一つ吐かせると、サチコの立っている所は、トラククの荷台で、夜露の中にゆっくりと紛れ込んでゆく。メグのマネキンを横抱きにし

た、頭が下から駆け込んできて、御手洗達とそれを見ている。

アタマ 星よ! お前が見てるものは俺も見てるぞ!

サチコは去る。マニキュアの爪をした義手の指、何か掴もうと動いている。彼らの視線は、ゆっくりとその手に戻る。

(サンケイ出版刊・ねじの回転より)

朝日ノンフィクション

バリケードを 吹きぬけた風

日大全共闘芸闘委の軌跡

橋本克彦・著

定価1,400円

四六判上製・328ページ

学生運動史上未曾有の大闘争となった日大闘争はいかにして生まれ、いかにして消えていったか。当時、芸闘委指導部の一員として闘いの渦中にあつた著者が綴る、傷つき燃焼した青春——これは彼らが「怒れる若者」であり得た時代の壮大な挑戦の記録である。



朝日新聞社

■68／71黒色テント⑨

タイタニック沈没

作・演出 佐藤信

●公演データ
5月23日・28日 築地本願寺
5月30日・6月1日 カネボウ跡地

●H・M・エンツェンスベルガーの「タイタニック沈没」(野村修武)による。
舞台。
鉄の床。中央にハッチのついた大きな鉄のテーブル。正面の壁に、水道の蛇口と陶器の洗面台。空中に吊り上げられた、一艘の救命ボート。場面は終始変化しない。
あちらこちらで、絶えず少量の水漏れが続いている。様ざまな形のしみと水滴り。
(上演台本より)

68／71黒色テント公演予定
タイタニック沈没
7月1日
函館大森公園
7月3日～6日
札幌中島公園

八月の劇場⑤
真夏の夜の三人姉妹
8月6日～17日
俳優座劇場

8・15敗戦コンサート⑤
ある晴れた日に
8月15日
俳優座劇場

赤いキャパレエ⑧
プロレタリア哀愁劇場
9月中旬～11月初旬・全国巡演

※11月にシアターアプルで江本孟紀と斎藤晴彦共演。加藤直演出。



●斎藤さんが同会を担当するI・P・Mでのこと。
ゲストの片桐はいりに、所ジョージ、由利徹が「ブス、ブス」を連発。はいりファン、こちとら、ちよつとつっこいんでねえけのムカッとした矢先、「女僕は無言で美しけりやいいんだ」とさりげなく斎藤さんがヘルプ。はいりすかさず「先輩アリガトウゴザイマス」。良かったですね。タレントにはない小劇場の気骨を感じました。
「しやれのつもりだろうけど、傷つく奴は傷つくぞ。俺はあの二人にこころよく軽く反撥してやろうと思ってたんだ」
トーク番組にする意図もあるとか、ゲストに芝居の人を迎えることも多い水曜イレブン。おヒマでしたらチャンネルあわせましょうね。(H)

やっぱり 斎藤晴彦には黒テントがよく似合う

取材構成 日吉真仁

●このところテレビ・商業演劇で活躍の斎藤晴彦さんが、「ジャンバラヤ」以来、あしかけ三年振りに黒テントの舞台に立った。薫風さわやか、陽光うららかな午後、築地本願寺の石段にのんびりと腰を降ろして、あれやこれやと聞いてみた。

●折しも黒テントに水をかけ、埃を叩く若い劇団員達。「今、埃を払ってやってるんだよ」と黒テントを見やる慈愛に満ちた眼差しが印象的だった。そこにはしんと静まりかえった劇場ではなく、街のうねりの中で芝居をしてきた役者の清々しい顔があった。

旅はひとつの遊びだね

「このところ街のキレイな劇場で演ってきたわけですが、三年振りのテントの感触はいかがですか。」

▼テントは見てわかるとおり汚ないのね、埃はいしよ。まあ街に立てるから当り前なんだけど。だから劇場みたいに、音のしない、しんとした所で、ある完全な何かを狙うのと違って狙いようがないところがある。雑だし、ラフだしさ。だけど逆にそれが緻密な芝居を創ることになるわけだね。テントそのものがラフな存在だからこつちが雑になったらどうしようもない。役者一人一人が、実際に繊細に演ってるかどうかは別にして、どうしても繊細さを要求されるのね。テントはある人間の繊細さを培うには良い空間だと思うよ。劇場ってのはしんとしてるからさういふことに気づかないのね。だから小さいセリフも簡単に出来ちゃうけど、テントでは小さいセリフ言えないもの。どうしても言わなきゃならない時なんて、ホントにクタクタになるよ。久し振りにやって一番感じたのはさういうことだね。

―東京公演が終わると一ヶ月余り、東北・北海道への旅公演ですが、楽しみにしてることありますか？

▼この年になると旅はひとつの遊びだと思ってるからね。ボクらの芝居の仕方は組織動員じゃないからさ、テントの芝居を見たいという人が地方にいて、まあ五、六人の人達が

刺さるいう役どころですよ。
―タイタニックプロジェクトって何のことですか。

▼黒テント独自のものだろうね。劇団つてのは昨日今日芝居を始めた奴もあれば、俺みたいに長い間やってるものもある。昨日今日の奴に俺のレベルでお前は駄目だと言っても始まらないし、若い奴は年寄りの演技は旧いと言っても始まらない。実際に芝居をしながら、役者同士の交流・コミュニケーションを測ろうと、常にさういふふうにやってるんですよ。黒テントは名前は仰々しいけど役者の交流・コミュニケーションなんだ。

―赤いキャパレエもさうですが、普通の人には判りにくいんですね。

▼俺達がつて判りにくいことが一杯あるね。劇団の名前からして判りにくいもの。まあ、そのへんが俺達の資質でもあるわけだけど、判りにくいことも、判りにくいって言われたら駄目だよ。パツと見て芝居は一目で判らなくちゃ。さういふ所が社会性みたいなものを軽く考えてるふしがある。客が来なくても文句言わなきゃそれもいいけど、俺は客が来なくちゃまずいと思うね。

年に一度はテントで演りたい

―旅から帰ると八月の劇場で三人姉妹でですね。
▼ウン。八月の劇場は俳優座劇場との五年間提携の最後の年なんだ。前から佐藤がチエホフの三人姉妹をやろうって言ったのね。俺達がやる三人姉妹だから、オカマの三人姉妹が出てくるかもしれないし、かなりドタバタになると想うよ。

―九月半ばから赤いキャパレエで全国巡演を開始する「プロレタリア哀愁劇場」は確か数年前原作者に会いに行ってますよね。

▼楊野浩さんには前に山元清多なんかと一緒に博多へ行つて会つてきた。今、タクシの運転手をしてもらう小説を書いてないけどこれはゼヒやりたいわけ、今の時代の演劇のテーマからいくと時代錯誤みたいな話だけど何とかやりたいね。凄く面白くしたいしね。芝居の世界から疎外されているシチュエーションであるよね。さういふ芝居をどんどんやっていきたいね。

十一月にはシアターアプルで野球の江本孟

中心になって切符を売ってくれるわけだから客はそんなにこないよ。十六年間、それをやってくれる人達もいれば若い人達もいる。全くお金にはならないわけだけど、個人的な関係で芝居をうつてのはマスメディアの時代に珍しい関係のわけだよ。だから、何よりもその人達に見せたいし真ッ先に意見を聞きたいと思うわけ。誰に見せたいのかが、はつきりわかる意味では旅は最高だね。

旅公演で好きな土地ってありますか？

▼行った時に良い天気なら何処でも好きだね。雨が降るとホント嫌だよ。ことに朝から雨が降るとのにテントを立てたり、解体時に雨が降るのはホント嫌だね。晴れると土地なら何処でも良いね。

漂流する教授

―「タイタニック沈没」はドイツのエンツェンスベルガーの長篇叙事詩を題材にしています。役どころは。

▼エンツェンスベルガーはタイタニック沈没を一種の神話であり、伝説みたいなものとして書いてるよね。だから終末論とかさ、末期的症状つてのはテーマでもあるけど、だから世の中ももうすぐ終るぜつていう芝居じゃないよ。

ボクは「漂流する教授」って役なんだけど、漂流してるんだから世の中の動きみたいなものに樂觀的な人だと想うわけ。そして教授は一応インテリでしょ、つまりインテリが漂ってるんだよね。日本のインテリも現代を警告してるけど、今の時代、しせんは漂つていくにすぎないんじゃないかと、漂流する教授という名前からしてさういふ皮肉じゃないの。だから喜劇的にならざるを得ない。

ボクは終末とかつてのは喜劇的に考えるしか手がないと思うね。まあ核戦争は始まるぜと言ってるんじゃないよ、始まってみないとわからないが、始まった時には遅いというふうなものでしょう。何となく今の世の中キナ臭いとか感じるよね。そうは想っても、そのことで何か起こる予感はあるけど、別に今をうつてことはない。結局、人間つてのはやっぱり漂流している存在なんだという風

紀と一緒に演る予定ですが、その後について何か？

▼これからはテントの芝居と外部の芝居をどっちもやっていくと決めたわけ。年がら年中、テントに出てる年でもないし、た一年に一回位は何かの形でテントでやらないと精神状態が良くない。これいいんだよ。バランスがとれるんだ。

―話は変わりますが確か熱烈な巨人ファンでしたね。

▼前みたいに燃えてないね。昔は巨人と言えば神話があった。でも今は普通のノーマルなチームだよ。相撲でも神話化できる横綱は千代の富士が最後じゃないの、この後の横綱つてたぶん、ロクなもんじゃないよ。昔は巨人が負けたら一週間位、生活の中にダメージを受けたけど、今はないよ。ちよつと寂しいと思うね。

―それでもプロ野球はお客が一杯ですよ。▼何かさういふのって虚無的で気持ち悪いね。だけど皆、燃えてないよ。外野席の、中畑燃えろ。にしても、非常にフオーマルな、一種の若者のパフォーマンスで、やらせという感じがして内面的になっているとは思えないもの。何か演劇的な感じがするじゃない。

―インタビュでうんざりする嫌な質問あります。

▼そりやもう一杯ありますよ。ただ人間で知らないものは一面しか見えないからね。この一面しか見られないのは不愉快であると同時に無理もないなと思う。だいたいインタビュ一つてさうじゃない、知らないんだもの。知らない所から始めるから完全に一面的のものを考えてる、基本的にすつとそれだね。まあしょうがないと思うけど。

考えてみると、KDDIで出て、何でテレビドラマに出られるんだって俺は想うわけだよ。そんな簡単につながるもんじゃやないだろう。さうですね。評判の「冗談オペラ」を最初に演つたのは、どういふキッカケですか。

▼何年か前に、水牛楽団とコンサートをやった時に、高橋悠治さんにピアノで伴奏してもらったのが最初だね。芝居で「キネマト怪人」の中で演つてると、自分じゃそんな新しいことをやってる気はないよ。

睡眠の計画 #3

作・ダムタイプシアター 演出・穂積 幸弘

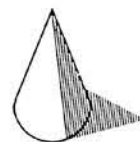


観戦記

梅本承平 (映像作家)

DUMBとは『言葉が出ない』という意味だそう、文字どおりセリフは出てこない。番号、季節、場所などが日本語ではない英・仏語などで指示されるに過ぎない。舞台は無言の10分間から始まる。我々はこの10分間にこの芝居との付き合い方を教えられ。言語表現が力を失って久しい、言葉を重ねれば重ねる程世界は矮小化される。さあ新しい世界が始まりますよ、と言うメッセージが聞こえてくる。頼りになるものは皮膚感覚であり、面白いものは仕草やアクションであり、想像力は単語によって広がる。確かなものは言葉ではないのだ。舞台はそれらの積み重ねによって構築されてゆく。照明設計がすばらしい、音響が衝撃的である、美しい舞台だ。コンテクストの乱れを感じながら、充実した舞台空間の中にいた。途中、不意にこの芝居を日本最大の企業であるNTTのおじさんたちが観たら、どんな感想をもらすだろうか考えた。かえるコール

が妙に受けている時代である。夫婦や家族の最大のコミュニケーションともなっている。だが、そこに愛があれば、1時間後の世界を予告する必要などはない。かえらないコールだけで充分である。なのに時代はその短いフレーズを求めている。価値観が多様化し、次々と問題が起ってくる時代の中で、力を失った言葉がかりうじて保証してくれる世界だからだろうか。そこに目をつけガッポガッポ儲けているNTTが憎い。言葉が眠るとき、かの世界が目覚める。DUMB TYPE THEATERの睡眠の計画に期待がかかる。ともあれ、オレンジルーム中島プロデューサーの「前衛劇だから動員は期待できない」の控え目な言葉とは裏腹に三回の公演で600人を動員した。次回、近鉄小劇場で行われる大阪国際演劇祭参加の続編が楽しみになってきた。



5月31日・6月1日
大阪・オレンジルーム

●キャスト

古橋 二
萩内美佐子
岡本孝司
安東由理子
そうらつくね
倉科 杏
沙羅 優
井久保 真理
片山和彦
平松 美保
大内 聖子

DUMB TYPE THEATER公演予定

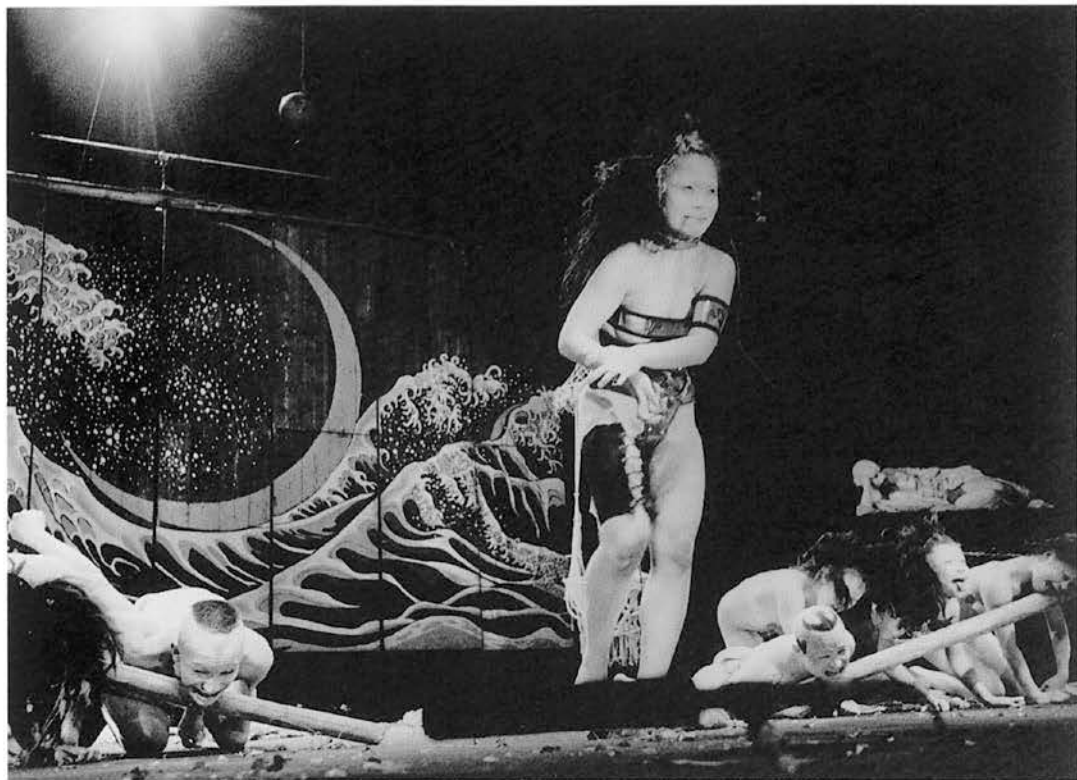
睡眠の計画 #8

演技者不在の演劇・ゲームの規則による演劇
7月1日～7月20日
京都四条河原町・梁画廊

睡眠の計画 #5

8月4日・5日
近鉄小劇場
☎075-872-0847 ダムタイプオフィス





大須賀勇 インタヴュー
冒険、踊り、
出前なんです



photo.守屋 美

白虎社

虎穴に入らずんば虎児を得ず。白虎児は幼少の頃、頭があんまり大きかったのでも下ばかり向いて歩いてた。不惑をむかえる白虎はチャメツケたつぶりな眼をしてバリ島のジャングルから中近東の砂漠、ええい！ ままよ台湾、はたまた日本の熊野、まだまだどんどんい。といった話を人間言葉で話してくれました。

勇さん今度会ったら巨大肥したベロでお酒をベロベロなめましょ。

白い虎には赤い虎がとてにもあった。

●タブー破りの鉄砲玉

台湾での反応が凄かったとか。ちょっと異常なぐらいの熱狂で、フィナーレなんか、三〇〇人ぐらい花道から上ってきて、出演者は押しつぶされる、男同士抱きついてキスはする、サインしちゃうやつがいるで、まるでパニックですよ。その劇場が孫文を記念したホールで、孫文の五メートルぐらいの銅像があるんですよ。そんなところでトップレスきりのやつたのは初めてなわけでしょう。もともと儒教の国で、親子でも裸を見せないとかいうんだから。そのうえ、動物あり、爆竹あり、西瓜割りありだから、賛否両論がすごかった。劇場側とも公演前に採めたし。でも公演の後半からは、すっかりアイドルでね。屋台に食べに行くと、みんなおごりで、お金いらなかった。

—そういう反応は、行く前に予想できてましたか？

ある程度してましたけどね、はるかに上回った。東南アジアはずいぶん巡ったけど、台湾は抜きん出た。ぼくらは公演で前にヨー

ロツパも行ったけど、日本やヨーロッパに比べるとアジアというのは言葉で理解しようがないです。べつに前衛とかアングラってないから。見たまま楽しむって感覚で見て。見方が、けっこうラフなもん。退屈だったら寝ちゃう。面白いところはゲラゲラ笑うし。女装してケツまくるシーンなんかドゥツツて笑うのね。子供達からなら。

—子供もたくさん来るんですか？
いや、劇場へ来られない人のために、町の中に出て行ってるわけ。村の広場とか街頭で。アジアの場合、そういうところだとはほとんど金取れないですね。無料でやる。なにしろ映画が百円だとか、そういうところだから。それで、こちらが出て行ってるわけなんです。

—そういう場所は不自由なく使えますか？
いや、だめですよ。台湾は特にうるさいですよ。海岸線は国防上とか、寺は宗教上とか、日の丸の使い方も文句つけられたし。撮影も野外では難しかったですよ。それに公演自体でも、白虎社のことを呼んでくれた側も、詳しいデータは劇場側には教えなかったみたいですね。教える問題になるから。

—呼んだ側というのは、何で白虎社を知ったんですか？
四年前にね、フィリピンでアジア演劇祭というのがあって、その時に見てたらしいんですよ。それで、どうもうちを突破口にしようと思っただけ。自国のタブーがあるでしょう、宗教なんかの。それが外国から来たわけだから規制がしにくいわけですよ。そういうので一番いいらしい。うちを呼ぶと後がすく楽になる。一種の鉄砲玉なのね(笑)。

●トランスの島、バリ島

—外国へ行き始めたのはいつ頃から？
一九七六年にね、一年間東南アジアを巡ったんですよ。これは、要するに向うのキャパレー巡りで、シンガポール、タイ、マレーシアなんかを稼ぎながらね。それが最初で、その時、いろいろな国を巡ったなかで、一番の面白いシヨックを受けたのが、インドネシア

クかけられて、いろんな絵や彫刻なんかを作るわけですよ。踊りや音楽だつてどこかに夜のイメージがある。つまり妄想や幻想を、妄想や幻想にしておかない、というか閉じこめておかない。

●肉体系業の出前

—そういうところから、急に日本に帰ると、切り換えが大変じゃないですか。
あんまり切り換えようとしなのね。いわば無国籍だから。まあ、生体実験の旅と言ってるんだけど、切り換えるとかいうことはあんまりしない。その方が状況がよく見えるから。

—外国へ行く時は、やっぱり射撃みたいなものを考えながら行くんですか？
それはそうです。今、五ヶ年計画というのをやってるんですよ。

まず、第一次五ヶ年計画が東南アジアキャラバン隊で、まあ、アジア中心に五年ぐらやってきた。今度、第二次五ヶ年計画に入って、各大陸を五年かけて巡る五大大陸めぐり世界舞踏キャラバン、という形になる。それは最後は南極大陸まで行く。そして、その頃は月へ行く手段も出てくるだろうから月へも行く。それに、具体的には踊りで巡っているわけだけど、やっつては踊りというふうに限定しない。南極とか北極とか、月まで行くと、もう冒険とかそういうジャンルだからね。あんまり踊りで巡るといって感じではなくなるわけだから。

—存在そのものが行くわけですか？

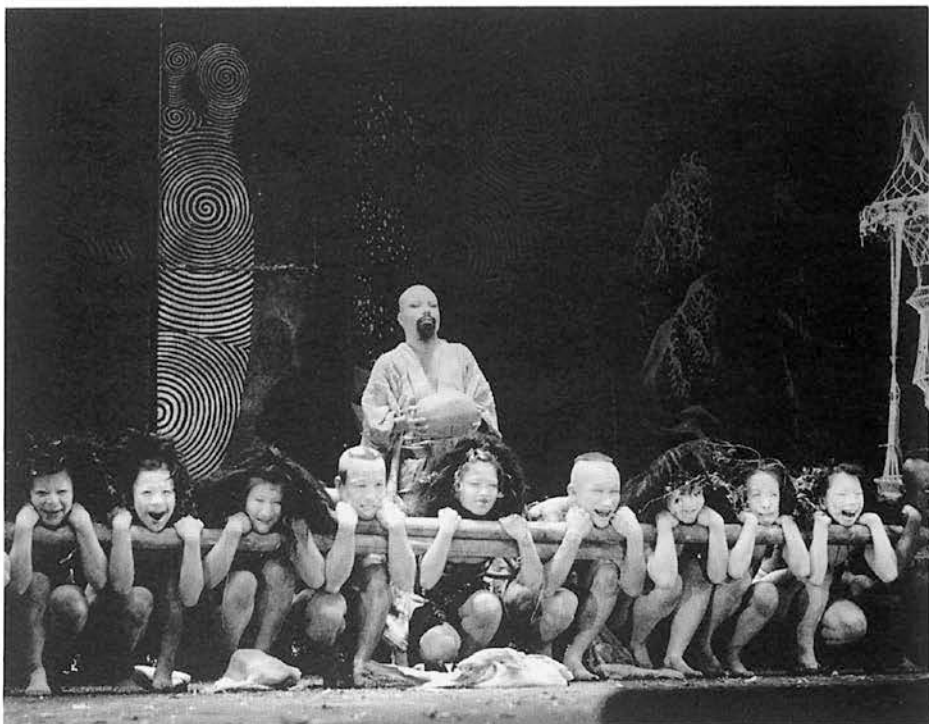
そう。それで、たまたま踊りもやっちゃおうと。一種の、身体そのものが一つのメディアアというか、伝染するメディアという形でね、ある場所にどんどん繁殖していくという。だから砂漠へ行ったら、とかげみたいになったりする。あんまり、人間というジャンルばかりじゃなくやっついていきたい。

- 白虎社写真集(ヨーロッパ・ロケ) 美術研
- 白虎社ビデオ(台湾ロケ) 映スキャンニング・プール
- 夏期舞踏文化セミナー体験合宿
八月一七—二八日 申し込み受付中
- おびやこくらぶ というファンクラブが出来ました。申し込み受付中

以上すべての問合せは白虎社まで
〇七五—六六一—五二三七

構成・演出 大須賀 勇

台湾芸術祭参加公演



三月・国父記念館 「ひばりと寝ジャカ」

白虎社
京都に本拠地兼稽古場を置き、共同生活を営みながら活動。また、毎年、和歌山県熊野で、夏期舞踏合宿+文化セミナーを開催。
一九八〇年以来、東南アジア舞踏キャラバン隊として、東南アジア公演を行うとともに、昨年はイスラエル・ヨーロッパ、今年は台湾と積極的な海外活動を行い、各地で熱狂的な反響を巻き起こしている。

大須賀勇

一九四六年広島生まれ、一九六八年コンピューターエンジニアから転身、一九七二年大略船艦創立に参加、一九七六年より一年間、東南アジア・中近東を舞踏行脚のち、一九八〇年白虎社を創業。

- 夏期合宿は一般にも開放されていて、全国から若者が集まるそうですが、断髪式や、共同の自炊とおそれなして、脱走するものも少なくないという事です。
- 大須賀さんの好きなテレビはプロレスで、その時間帯は格古をしないという話です。
- 白虎社の全科玉案
- 踊り子は公私混同成私奉公の赤児である。体力は才能と知るべし。
- 後楽園での公演は、全て生演奏で、マルバ、娘義太夫、三味線、尺八、一七弦等の演奏という感じです。

だった。いわゆるジャワ島とバリ島にかけてずつと巡ったんだけど、非常に芸術的な意味で面白い。音楽村とか踊りの村とかあってね、絵や彫刻にしろだいたい村中みんながやるんですよ。それも、普通に働いている人や子供がみんな音楽やったり、絵を描いたりする。昼間農業をやった人が、夜になると化粧して、突如おかしなやつやう、それが自然な世界なわけ。それにプロとかアマというふうに分かれてないだけじゃなく、伝統と現代っていうものもない。どんどん変化していく。外国のもので面白いものを受け入れる。もう今に生きているわけですよ。そのへんが凄いとにかく急に変わるからね。すごく面白い。たとえば、魚を捕ったり、田んぼを耕したりした人が、化粧して、突然トランス状態に入っちゃうんですよ。そうすると剣で突き刺す踊りを踊っている時なんか完全に狂ってやっつて。それで終ると突然また普通の人になっちゃう。そういう変化が全く日常の中に行われているわけですよ。入れ替えが簡単に。だからあんまり準備して、やるぞ。って感じじゃなく、あつという間にそうなるやつやう。

—酒なんか飲んだりしないですか？

暑いから酒はあんまり飲まないのね。葉草がいっぱいあるね。匂いを嗅いだりするものがいっぱいある。ぼくが行って見た時は、へんな葉っぱみたいなものを火で燃やして、それを吸くと、ちやうど狐つきというより犬つきね。犬になっちゃうんですよ。それで周りで見てる人のところへ、ウーッって寄って行ったりする。それから葉草だけじゃなくて水でトランスにかつちやうこともあるし、お茶飲んで酔っぱらったりね。いろんな魔術がある。バリというところは島全体がトランスにかかりやすい状態なのね。

—自然といつても交感できる島というわけですか？

そう。真っ暗になるしね、村にはほとんど電気がないから。月明かりだと風景なんてもう全部影絵になっちゃう。そうするとやっぱり妄想や幻想が生まれやすい。それでマジッ



公演予定
「ひばりと寝ジャカ」
1986年7月11日・12日
後楽園アイスハレス特設舞台
問合せ・ビッグシヨット
03-479-3271
問合せ・白虎社
075-661-5237

トロカデロ・デ・モンテカルロ バレエ団



Photo 板波真樹

TROCKADERO



トロカデロ・デ・モンテカルロ バレエ団団長
ナッチ・テイラー インタビュー

― 結成当時、会場その他で障害はありませんでしたか。

まず最初に会場を押さえるように思った時、このバレエ団を何と伝えて良いかわからない、言わば男性が女装をしてバレエを演るのですが、それでいて「オ

カマ・ショー」ではない、ちゃんとしたバレエなんだと伝えるのに苦労しました。ただ、一つ借してくれる会場が出まして、そこで公演を始めるとニューヨークのプレスが好意的なレビューを載せてくれたので、次からは全く問題はありませんでした。

― 当時から今の様なコミカルなスタイルを確立していたのですか？ 最初はもっと正統派バレエをやっていたと云うことは？

最初からそうでした。と、云うのも始めのコンセプトが「バレエを面白くやろう」ということでしたから。

― じゃあ、単に「自分もプリマを演ってみたい」と云う動機ではなかったのですか。

そうじゃありません（笑）。プリマになってトウで立つのは大変なことです。今でも皆がやりたがりませんよ。

― 本番のアクシデントなどでギャグを構成していくのですか、それとも演出家が決めていくのですか。基本的には演出家です。しかし普通のバレエ団では明らかに失敗と分る処でも、我々の場合、わざとなのか、本当に失敗したのか分らないと云う事が常にありますから、上手く利用することはあります。トロカデロのパフォーマンスは、このまま発展させて行くと、バレエというカテゴリーにはまらなくなってしまうか。

― そうはならないと思います。バレエとは我々と観客をつなぐ伝達手段であって、その上にユーモアをのせているのですから。バレエが無くなってしまったら観客にユーモアを伝える術が無くなってしまいます。

― バレエに限界を感じることもないわけですね。

素材という点から云えば歴史上の名作の中で我々が手を付けていないものも数多くありますし、新しいバレエを我々で作って行くこともできます。限界は感じていません。

― ではバレエに限らず刺激を受けるアーティストはいますか。

私個人ではマルクス・ブラサースが好きです、あとTVなどで活躍したジョージ・バーンズとその妻グレイシー・アラン（コメディアン）彼らの「ボケ」と「突っ込み」のセンスには学ぶべき処が多いですね。

取材構成 落合星文



トロカデロ・デ・モンテカルロ バレエ団

(Les Ballets TROCKADERO de Monte Carlo)

1974年9月結成。ニューヨークにて初演。

『白鳥の湖・第2幕』『ドン・キホーテ』を演

じ、ニューヨーク・タイムズ、ビルッジ・ポ

イスなどに絶賛される。

1976年本格的なワールドツアーを開始。

1982年初来日、2週間12回公演は全公演

『立ち見』を出した。以後、83年10都市24回公

演、84年19都市30回公演、海外のバレエ団が

日本国内において、19もの都市を公演するの

は、彼らが初めてだった。

1984年結成10周年の記念公演はアメリカ

で30週間に及んだ。

1986年4度目の日本公演は、5月から26

回の公演が予定されている。



今回の取材で、お世話になったワン・ワールドの小嶋律子さんに、勝手に載せたくらいで恐ろしかった。

シカゴ世界演劇祭実況報告

世界演劇祭といえはヨーロッパでは伝統的で、毎年のようにどこかの国で催されている。例えば、昨年のフランクフルト演劇祭。ロバート・ウィルソンとデビッド・バーン、ヤン・ファールブル、マリア・カラスの一生をモダンバレエにのせたプレマータンツァアターなんかを受けてたよ。そこで今回は演劇祭レポート第一弾として、風の街シカゴで開かれた世界演劇祭の模様を報告してもらおう。



①ナショナルシアター(英)＝本当のハウンド警部。もはや不条理劇の古典とまでいわれる作品。ナショナルシアターの役者達によって演じられるカタにハマック日常は、リアルを飛び超える。本当のハウンド警部はいったい誰だ？

②マーケットシアターカンパニー(南ア)＝Asinamali。最新のサウスアフリカのシアターシーンで最も賞賛され、影響力を持っているグループ。設定はサウスアフリカの牢獄。5人の黒人のプリズナー達が、歌、踊り、言葉を駆使し、状況を語る。

③ハイファ・ムニシパルシアター(イスラエル)＝ゲットー。1983年に本国で初演されて以来、西ドイツなどヨーロッパ各地で上演され、センセーションを巻き起こしたホロコースト劇。作者のゾボールは今世界的に注目を浴びている劇作家だ。第二次世界大戦中のポーランドのフィルナ収容所の物語。

④SCOT(日本)＝トロイアの女。最近では日本より海外公演の多いSCOT。今年の利賀フェスでは新作「桜の園」が上演される。

「シカゴの観客は、まだ本当の前衛の何たるかを知りません」。これは第1回シカゴ世界演劇祭のプロデューサー、バーナード・サリンス翁の言葉。1984年のロスアンゼルスオリンピック芸術祭の成功に刺激されて、エスタブリッシュメントを自認するアメリカ東部の演劇人、プロデューサーたちも、本格的な演劇祭の準備にとりかかった。そして今年市制100周年を迎えたシカゴで、4月28日から5月25日の1ヶ月、東部で初めての世界演劇祭が開かれることになった。

参加団体は外国6、地元シカゴ11の計17劇団。ナショナルシアター(イギリス)、ハイファ・ムニシパルシアター(イスラエル)、エル・トリシクル(スペイン)、カルロアンドアルベルト・コロンバリオニ(イタリア)、マーケットシアターカンパニー(サウスアフリカ)、それに旧早稲田小劇場のSCOT(Shizuoka Ki Company of Toga(日本)である。

ローレンス・オリビエによって1963年に創設されたナショナルシアターは「桜の園」、トム・ストッパードの「リアル・インベクター・ハウンド」など4本を一ヶ月に渡って上演し貫録を見た。一方イタリアのカルロアンドアルベルト・コロンバリオニは兄弟二人組のグループ。コメデイ・デラルテの伝統を受け継ぎ、道化、アクロバット、ジャグラーの手法を取り入れた軽快な舞台で客席を沸かせていた。

イギリス、イタリア共に非常にオーソドックスな感のある安定した舞台であったが、ややインパクトに欠

けたようだ。

ニューヨークに代わりアメリカ演劇界の中心になりつつあるといわれるシカゴ。表面の活況とは別にその実情はといえば、旧態依然たるアメリカン・リアリズムとミュージカルに代表されるエンターテインメントが主流である。

その中で、サウスアフリカやイスラエルの異世界からのアプローチは興味深かった。

サウスアフリカのマーケットシアターカンパニーのステージでは、黒人の役者が突然舞台を降り、白人の観客にアジャイトしたり、イスラエルのハイファ・ムニシパルシアターは、レポートリーをすべてヘブライ語で上演し、話題をまいていた。

鈴木忠志率いる日本のSCOTは、フランクフルト、ベネチア、マドリッドなどの世界演劇祭に続いての登場。代表作「トロイアの女」をシビックシアターで5月13日から25日の2週間上演。前述のサリンスプロデューサーがロストこの舞台を見て感激し、今回の演劇祭の構想が生まれたといわれる作品。

シカゴの観客、若い演劇人たちの反応は熱狂的で、「トロイアの女」を見たある演出家はシンポジウムの席上、「アメリカの劇団でSCOTのアンサンブルに匹敵するものはない。もしあるとすれば、スーパーボールチャンピオンのシカゴベアーズだけだ」と、ユーモアをまじえてその衝撃を表現していた。

シカゴでは来年も演劇祭の開催が決定されたようだ。



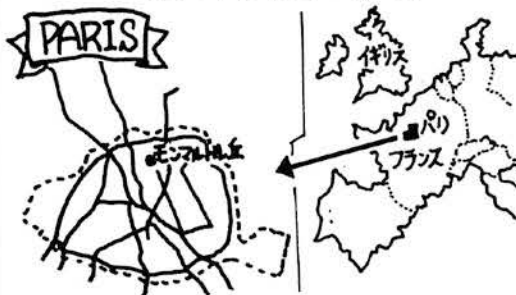
Main Dish

興奮、迫力、驚異……。

背骨で感じる、あちらの「芸」はスゴイぞ。
 “パリ→ダカール面白ラリー” 橋本克彦



パリ・クレイジー・ホース



4月某日・パリにいた。

エイプリル・イン・パリだ。ビッグバンドの雄、カウント・ベイシイ楽団が好んで演奏したスタンダード曲とは何の関係もなく、深夜11時からスタートのクレイジー・ホースにもぐり込んだ。

パリ風小粋な演出のショーであり、かつて『ヨーロッパの夜』という映画でそのステージを見て以来、いつか生本番を、いやライブステージを観てみたいと念願していた舞台である。入場料5百フラン。約1万5千円で2ドリンク付き。千フランだせばかぶりつきでシャンペン1本というテーブルもある。高い料金なのでパリっ子はほとんどこの劇場に来ないのだという。客はアメリカ人、日本人、その他おのぼりさんの観光客3百人ほどで超満員だった。

舞台は小さい

幅10m、縦20mほど。この空間に1m70cmクラスの、お見事なプロポーションの女体が15人ほど並ぶと、意外や舞台全体が大きく見えてくる。ここがパリ風演出。アメリカ風のこれでもかという大がかりなショーを否定し、パリにもいくつかあるそのものズバリのピーピング・ショーを否定し、もちろん日本式オープンス

モンマルトルのバントマイム



ダカールのセネガル角力



マラケシの蛇使い



ページもないストリップショウが、一景、5分〜7分でケンラン豪華にくり広げられる。場内はまっ暗。

さえ、7色のスポットライトの色が極だつ。場内の後方から網目もようの影が映写されて、きらめきゆれる肉体がこの世のものと思えぬ幻想的なエロティシズムを放散する。つまり、男が見たいところが見えているように見えない。それがこちらを幻惑にみそめるのである。男にとって、もっとも理想的な春夢が、ここでは目の前に怪しの風情で出現しているわけである。私ははっきりいってエロチックに興奮した。これは生身の女体を使

4月〇日、モンマルトルの丘のうえで、バントマイムを観る。バントマイムといえは超人的芸域のマルセル・マルソウがいるが、かすかにマルセルの香り残す街の芸人の帽子には小銭が結構投げられていた。

4月×日、いきなりモロッコはマラケシの芸人広場に立つ。コーランの講師、パドウィンの首振りダンスを踊る少年、トランプ占いの老

婆、三絃の楽器をかき鳴らしながら白眼をむいてぶったおれる熱狂のミュージシャン、金だらいのような形の太鼓を鳴らす楽隊など、1デルハム、20円のお代で芸を見せる広場。そのなかの蛇使いは、はるかにインドのコブラ使いに通じる芸風で、ぐったりした蛇をさも恐そうに観客につくつける。

5月△日、西アフリカはセネガルの首都ダカールで、セネガル角力を観た。戦意をうか、背中が地面につけば負けのルール。足蹴りのほかは何をやってもいい。ぶん殴ったあと腰帯をひつつかんで上手投げといった取り口が多い。すごいのは勝者の『勝利の雄叫びダンス』だった。7人編成のタムタムの響きにあわせ、俺は勝った！俺は強い！と叫び、黒光りする肉体を誇示して踊りまくる。

闊い足と踊りが分離しないで相乗的に盛りあがる彼らの文化は力強く、こちらの背骨をゆさぶるのだ。

芸とスポーツを分離させてしまったわれわれの近代主義は、

つまらない

という感想を得た。

Main Dish

河ロ 仁(マンガ家)の、

ハーレム・ミュージカル 観戦記
 『ママ・アイ・ウォント・トゥ・シング』



デジレー・コールマン



ヒギンソンと兄弟たち



そのヘクシャー・シアターでのミュージカルの出演者は、全員黒人。数回目を観に行き、全員黒人の開演前のロビーでコーヒーを飲んでたら1人の黒人のハイカラオバさんがボクの顔を見るとバツと笑顔をつくった。

「OooW! Nantoka Kantokaaa?」

と英語で話しかけてきた。誰かと思ったらこのミュージカルのシナリオライターでもあり出演者でもあるヴウィ・ヒギンソンという人。「あなた昨日も観に来てたでしょ？舞台からあなたの顔見ええわ。」と言った。「昨日観て、とてもおもしろかったので又観に来ました。」「ワー嬉しい！今日もタップリ楽しんでっネ！」

最初から何回も観るつもりはなかった。もう一度観て、もういいと思ったらやめるつもりだったが気がついたら、

8回観ていた。8回目を観終った後、ヴウィ・ヒギンソンに一言、「ありがとう」を言いたくて出口で待っていたら主演の1人、ドリス・トロイが出て来た。このミュージカルのストーリーのモデルになった人であり、ヴウィ・ヒギンソンの実の妹でもある。「姉は忙しいので先に帰ったよ。」とのこと。このあとドリスと6アベニューW59ストリートのWolt'sという大衆レストランで一緒に食事する。日本から観に来たことを話すと、「明日は休演日なので、

ウチに遊びに来なよ。」

と言った。彼女のアパートは6アベニューの58ストリートで、すごく家賃が高そうな場所にあった。



（ドリス・トロイの自宅にて）彼女もまたハーレムの出身だ。

仁：「ドリスの歌声はとてもパワフルだけど、1日何時間ボイス・トレーニングするの？」
 ドリス：「しないヨ。神さまがくれたままのナチュラルボイスだよ。」
 （ノーと、ゴッドとギフトとナチュラルボイスという単語が聞こえたので和訳するとこーゆーことだろう）
 ドリス：「仁は英語がほとんどダメだけど劇の内容は理解できて楽しめたの？」
 仁：「ハイ。ボクなりに、とっても沢山。」

ここで河ロ仁は初めて歌舞伎を観たときのことを思い出した。歌舞伎の知識は全くないので役者のセリフはほとんどわからない。舞台の上で唸るように歌ってる[?]オジサン達のコトバも理解できない。「そーか、これは外国語の音楽を聞いているみたいで耳で楽しめばいいんだ。深く考えないのである。舞台を見ればストーリーの大きな流れはわかるものである。あとは舞台から発射される『おいしいエネルギー』を食べつづければいいんだ。この味わい方は

プロレス観戦

の楽しみ方と似ているところがある。後日、ボクはブロードウェイのミュージカル「ドリーム・ガール」を観に行った。これがナントおもしろくないのである。そんなはずはない！有名なミュージカルだしおもしろくないはずがない！出演者のプロポーションにしたらって全員シェイプアップしてバツグンにキレイだ。「ママ——」の出演者みたいに太りすぎてたり細すぎたりしていない。入場料だって2倍なのだ。30分がまんして観ていたが、どうにも劇場の空気の冷たさにがまんできなくて席を立って帰っちゃったのであった。そこからがおもしろいところだったのかもしれないけどね。ともあれ、ハーレムの黒人ミュージカル「ママ・アイ・ウォント——」は真冬の寒いニューヨークで「熱くておいしいスキヤキ」を食べたような気分させてくれた。どーもありがとネ。

大地真央「リサイタル」カフカの夢

4月19日～5月11日



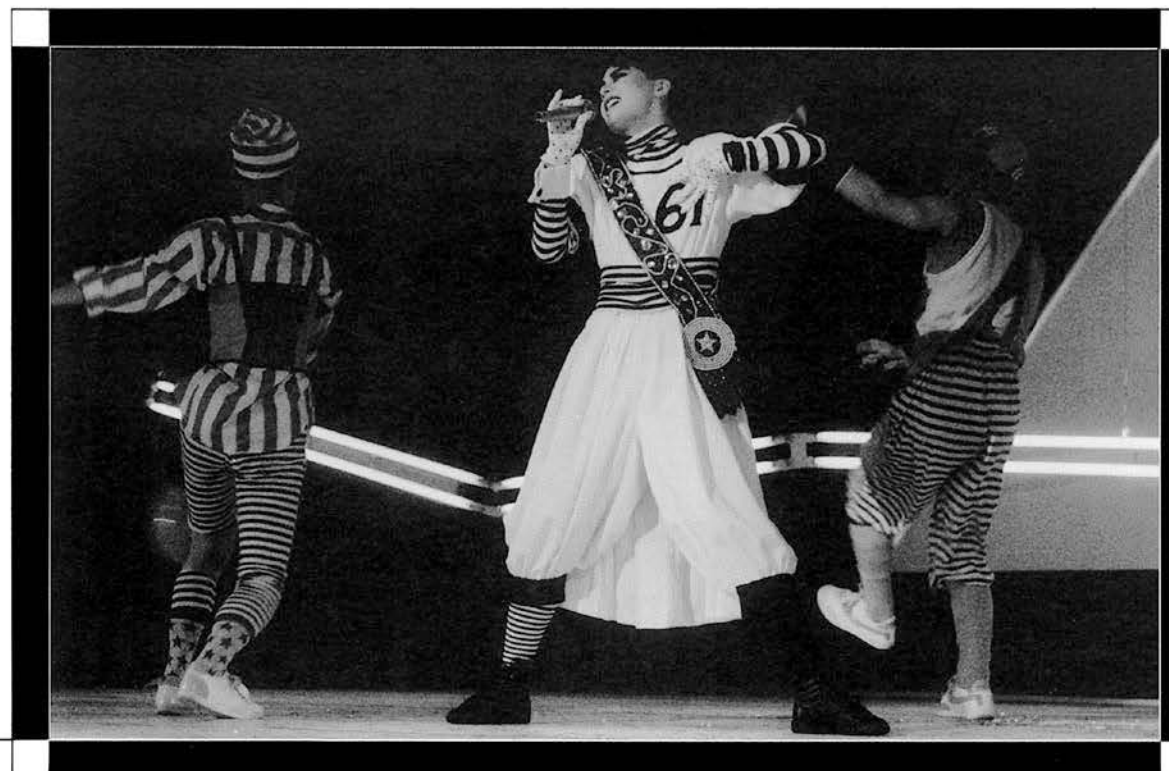
ショー「カフカの夢」における、大地真央の変身ぶりは驚異的だった。
彼女は、場面ごとに、変身し、変化し、変貌した。およそ1時間あまりの間に、女から男へ、また男から女へ、かと思えば中性へ、そして、女でも男でもなく人間でもない不思議な何かへ……。その変わり身の鮮やかさに、ハッと息をのむ。

それも、単なる女、男というのではない。それぞれに、神秘的、ダンディ、ミステリアス、ワイルド、エネルギッシュ、幻想的、キユーート、ゴージャス、ボーイッシュ、カッコイイetc……。ありとあらゆる形容詞がつくのだ。まさに「カフカの夢」の世界。

この変身にかかる時間は、長いもので1分半、短くて20秒!!

「衣裳はもちろん、ヘアスタイルから口紅まで変えました。私の限界までやってみたって感じます。短かすぎるという声もありましたけど、つなぎを入れたら、いくらでも長くできるんですよ。だから今回は、あえてつなぎをなくし、よけいなものをできる限り省いちやうたわけ。だから『こんな場面あった?』なんていうのはなくて、ひとつひとつが印象的だったと思うんです。凝縮したっていうか……。こんなショーは、ちよつとないですよ。その分、裏は表で見えるもの以上に、大変ですけど。でも私、いろいろ変わるの好きだから、徹底してやればやるほど、楽しいんです」

(土井美和子)



シェイクスピア×野田秀樹×大地真央=!?



インタビュー・構成 土井美和子

夢の遊眠社の3部作一挙上演の日。1本目が終わったところで、大地真央に会う。彼女が遊眠社の舞台を観るのは、これが初めて。

「舞台、いかがでしたか。」

「セリフの量がすごくて、シェイクスピアに似たところもありますね。ときどき音楽のようにセリフが聞こえたり。あれだけ動いてもお客さんを疲れさせないのは、さすが。それに動くばかりじゃなく、フツと落とすところなんか、呼吸を心得ていて、うまいですね。お客さんを押し下ろしたり引いたりね。」

「役者の野田さんは？」

A「えーと、十二夜。っていうんでしょ。あれ？」
B「十三夜。だったかな。とにかく、すごく面白いんで。」
C「ワーツ、それ観たい！」
B「私も行く。どこでやってるの？」
これ、地下鉄の中での、OL風4人の実際の会話。まだ始まっていないというのに、こんなウワサが街を走っている。普段話題になりにくい舞台のこと。おかしくもあり、嬉しくもありで、さっそくウワサの根源へ――。

A「ねえ、ねえ、野田秀樹と大地真央が舞台やるんだって！」
B「エーッ、大地真央って、あの元宝塚の？」
C「あの遊眠社の野田秀樹？」
D「あつ、それ私も聞いた。大地真央が男役するんでしょ。」
B「ホント!？」
C「じゃ、野田秀樹は女役？」
D「さあ、野田秀樹は出ないんじゃないかな。シェイクスピアの何かを演出するのよ。」



「写真とかで顔は知ってましたし、同い年という興味もあって、ドキドキしながらお会いしたんです。そして、背も私より小柄で、笑顔がやさしくて、かわいい雰囲気ですね。こんなこといったら失礼かな(笑)。で、私が2役する自信がないと話す、そんなの大丈夫ですよ」と、淡々とおっしゃる。その中に鋭さみないものを感じて、やっぱり天才なんだらうなと思っていました。」

「お稽古に入ってから、どうですか。」

「いやあ、もう尊敬してます。今はずっと年上に見えるんですけど、早くそれを逆転したいと思ってるんですけど。まあ無理でしょうね。稽古場では、ちゃんと先生と呼んでます(笑)。共演して形じゃないのが、今ひとつ残念なんです。一度一緒に出てみたい。」

「演出ってことでは？」

「こうして、ああやって、というのがないですね。それが、今までの演出の方と違うので、最初はエーッと思いましたけど。全体的にテンポがあってスピーディーで、そういうところ

好きですね。」

――セバスチャンとヴァイオラの2役ですが、役づくりの方は？」

「2人は双子なんですよ。だから同じように育ったはずなのに、男と女でこんなに年が違ふ感じがいいのかとか、片方が固くて、片方がヤクザみたいなのはおかしいんじゃないかと、いろいろ考えちゃってね。ずいぶんひっかかってしまっていて、とっつきが悪かったんです。それが、今回はそういうことよりも、私が2役やるという変り身の面白さや、早変わりが見え方にポイントをはかって、あまりシリアスに考えなくていいんだと思つた瞬間、ラクになりました(笑)。とはいっても、男と女、男装と、2役でも3つやってる感じで、まだまださぐってる状態です。」

セバスチャンは、裏街道を歩く人生って雰囲気、べらめえ調でしゃべる、どちらかというと、宝塚の男役に近いです。ヴァイオラの方は、最初と最後が女で、中頃が男装。」

「男装はむずかしい？」

「そうなんです。宝塚で男役だったんで、すぐできると思われてますけど、男役とは違いますから。かえってむずかしい。普通の女優さんが男の格好をする、それだけで男装です。私たちが男役やってた人間がやると、ちよつと違つちゃう。あまり男をつくらない方がいいみたいです。」

「早変わりもある？」

「一ヶ所ものすごく早いと作りたんですけど、いつもキチンと着がえてきたんじや、面白くないでしょう。野田さんとも、そのあたりをお話してるんですよ。」

「共演の方々は？」

「芸達者な方ばかりで、自分が出演者だつてこと忘れちゃうほど。ポケケツと口あけて笑つたりして(笑)。それにね、皆さん台本をはなすのが早くて、驚きました。私ひとりだけ、すごく遅れます。NHK(武蔵坊弁慶)の巴御前役があつた上に、役づくりでひっかかったりしましたから。実はまあ、いつも遅いんですけどね(笑)。」

と、きつと(演出家の方が)ひるむんじゃないかと思う。ばくの場合、ふところが深いんですから(笑)、大丈夫。」

「彼女の魅力は？」

「圧倒的に花がある。こういう人は、すごく少ないですよ。オレ、動かないで止まってるお腹が立つタイプなんですけど、彼女だと止まってもまあいいかと思っちゃう。」

――彼女は最初、野田さんの稽古のしかたにどう思ってたんですか？」

「それは育ちが違うからね。勝手に考えてきてたオレがいうと、ちよつとびっくりしてたもんね。よね子さんと橋爪さんなんかは、勝手にどんどん持ち込んでくる。で、本来は大地真央という人は、そういうタイプだと思ふんだけど、天性のものがあつて、のせるとボンボンやれちゃうし。だから、その辺が出てくれば、もつとつとすくなるんじゃないかな。それと、思つたよりもずっと素直(笑)。まあ、明らかにクセのある役者を集めたからね。」

――まわりの役者の人選は、野田さんが？」

「そう、ばくの方から希望を出して。みんな急だったのに、よく引き受けてくれたよ。全部やりたかつた人ばかり。そこで、今回のポイント、役者のヤル気(笑)。たぶんね、これだけ役者がいれば、2、3人は、若僧の演出だから、つてナメてかかるのがあるだろうと思つてたんだ。それが、ひとりもいなかった。橋爪さんなんて、自分から『もつと走り回りますよ』っていうんだもの、面白いよ。みんないい根性してるよ。」

――外部での初演出はいかがですか？」

「一長一短ですね。自分の劇団だったら通じるセンテンスが、意外に通じなかったり。また、ばくが矛盾したことをいっても、ウチのやつらだったら、しょうがねえなあと思ひながらやるんだけど、こつちの役者たちは、その矛盾点をついてきますもんね(笑)。今、ひとりひとりの性格を見ているところです。今回、役者たちの畑が一種類じゃないで、それぞれに、違うリズムを持っている。だから、あんまりガガガに固めようとは思わない。ばくも、わざわざ外でやるんだから、外のリズムをさぐりつつ、自分の趣味を押しつけて(笑)。……やろうと。それに、みんなも楽しんでやってくれるから、今回は怒鳴らない稽古場にしようと思つてます。」



photo 青木司

「けつこうあれこれ考えちゃうんですけど。感覚でパツとつかむタイプに思えますが。」
「私、本当は感覚派じゃないですよ。感覚派のようにやるのが好きなんです。私の場合、こうでこうだから、ウンと納得すると、動きやすくなる。それに、どうも一夜づけの癖があるみたいで、ドタン場にならないと、やれないんです。」

――じゃ、稽古中はキツイ？」

「そりや舞台に出てからの方がいいですよ。今、苦しみしかたないもの。悩む、考える、苦しむ。で、ときどき光が見えて、ああよかったと思うくらい。本当に、パツとできればいいと思うもの(笑)。」

――みんな、真央さんはパツとできる人だと思つてますけど。」

「いいえ、不器用ですから(笑)。ようやく私なりのセバスチャン像、ヴァイオラ像が見えて来たところです。今、やっとスタートって感じ。」

――これから、初日に向けてガガツと？」

「ええ、死んでも(笑)。いや寝ても起きてもやりますよ。せっかくなので野田秀樹さんの演出ですから、彼独特の世界を私の体を通して表現したいし、また、シェイクスピアのセリフの面白さ、テンポや間といったものも大事にしたいですね。この舞台ね、シェイクスピアなんです。野田さんの世界で、それを私がやるという。合わないような合うような、ちよつとワケのわからないところ、絶対面白いですよ。私も観たいなあと思つてます(笑)。」

ら、あんまりガガガに固めようとは思わない。ばくも、わざわざ外でやるんだから、外のリズムをさぐりつつ、自分の趣味を押しつけて(笑)。……やろうと。それに、みんなも楽しんでやってくれるから、今回は怒鳴らない稽古場にしようと思つてます。」

――シェイクスピアの本で、苦勞の点は？」

「ひとりのセリフが長いってこと。だいたいカットしたり、なおしたりしてるけど。突然ひとり6、7行しゃべって、そのぶつかり合いになると、どうしてもテンポがね……。自分の芝居には、ほとんどないことだから。」

――見どころは？」

「ありすぎて困つて(笑)。演出しすぎるのが、ばくの悪いクセで、今も集団をかなり使ひすぎているんで、少しけずらなきゃと思つます。ばくのはけたたましいからね。ウルサクなつて食傷する(笑)。でも逆に、そうすると、2人で恋を語るシーンとか、しまるってこともあるよな。」

――とにかく、今回は、大地真央のファンが見ても、ウチのファンが見ても、どのファンが見ても、それぞれに今までに見たことがない新しい面が見られる――という舞台にしたいな。」

野田秀樹と大地真央。育つた場所は違つても、何か似通つたものを感じさせる2人。たとえば、そのひとつは、変り身か、ということ。変り身鮮やかな大地真央。その彼女の2役を演出する野田秀樹。彼自身、役者としての変わり身が見事なことは、衆知の事実。そして今、作者、演出家、役者の3役を巧みに切り替え、演じ分けている。

――というわけで、何が出てくるかわからない。『十二夜』の舞台。シェイクスピア×野田秀樹×大地真央!!? この答えは、限りなく未知数だ。

公演予定
十二夜
作・W・シェイクスピア 演出・野田秀樹
7月5日・28日 日生劇場
東宝演劇子約センター
☎(59)7633

衣裳自体は和風じゃないんですよ。芝居としては、海で引き裂かれた双子の話だから、一番最初の人間が双子で、両性具有で裂かれたという話を強引に持つて来てる。そのイメージと、セバスチャン、ヴァイオラのイメージを重ねてるわけ。」

――「十二夜」を選んだのは？」

「シェイクスピアはやりたかつたんだけど、何で『十二夜』かつていうと、人がやつたのを観たことがないから。けつこうやつてんだらうけど、幸いに不勉強で(笑)、観ていない。これは強みです。観たものと、どうして何か引きずられちゃうと思うんだ。それに、大地真央という素材で、どれが面白いかと考えたことはもちろんです。」

――その大地真央さんとの初対面の印象は？」

「日生の楽屋に行ったときでしょ。あのときは負けましたよ(笑)。だつて、すごいメイクしてるんだもん。だいたいオレ、初対面強くないからね。近くでなんか見られない。しいていば、女の怪物、女怪とでもいいしましうか。こんなこといったら、ファンに殺されそうだな(笑)。ばく、ちゃんと彼女の宝塚の舞台も観てますよ。」

――今、演出家の立場からみると？」

「やっぱり、芝居バカの類ですね。すごく熱心だし、自分をどう見せるかに関して、実に貪欲。ばくのような自信家の演出家じゃない

石舞台星七変化3部作一挙上演

作・演出 野田秀樹

6月8日・国立代々木競技場第1体育館

★
白夜の女騎士
ナイト・オブ・ザ・ダーク

★
書留の使者
レター・フロム・ザ・パスト

★
宇宙警察
スペース・ポリス



夢の遊眠社公演予定
走れメルス
作・演出 野田秀樹
7月3日～28日
下北沢・本多劇場
☎496-1051
8月2日～5日
大阪・近鉄劇場

photo・神村光洋

さへ感じられた。そこで「こんなバカバカしいことを、またやりたいと思います」などと、サラリといってのける彼。これは、まさしく超人かと思ったが……。

「終わったときはね、そんなにくだびれてなかったの。タフなもんだなオレは、と思ってたんだけど、その翌日、体が全然いうことをきかない。芝居初めてやった16才のとき以来、そのときと似た虚脱状態になったよ」

彼もやはり人の子と、ヘンなところでホツと安心した次第。

（王井美和子）

6月8日、国立代々木競技場第1体育館で、夢の遊眠社10周年スペシャル「石舞台星七変化3部作一挙上演」と銘打った大イベントが行なわれ、上演されたのは、『白夜の女騎士』『書留の使者』『宇宙警察』の3本。集まった観客、のべ2万6千人。文字通り、劇団結成10周年を祝うお祭りだ。

最後の作品『宇宙警察』が終わったとき、巨大な2つのスクリーンに、「おわり」という文字が写し出された。が、さらに文字は続いた。これで終わっちゃう遊眠社の名がすたる。と、そして予告編をやるといふ。場内に、どよめきと拍手がわきおこる。3部作を通して上演した上に、おまけまでつけてしまう遊眠社のサービス精神とエネルギーに脱帽！

疲れる見せず、舞台を走る役者たち――。

中でも、野田秀樹の身のこなしは、群を抜いて軽やかだった。最後の最後まで、階段を一段おきに飛ぶようにかけ上がる姿には、余裕



遠藤ミチロウ×蜷川幸雄

＋GEKISHA NINAGAWA STUDIO

オデッセイ・1986・破産

5月16日→20日 ベニサン・ピット



photo・太田善博



NINAGAWA STUDIO公演予定
NINAGAWA少年・少女鼓笛隊による
血の婚礼
7月15日(木)～7月27日(日)
作・清水邦夫 演出・蜷川幸雄
ベニサン・ピット
☎635-4898

吹けよ東風!! 俺はアジアの自閉症!!

その1

蜷川幸雄の世界戦略

インタビュー●山口 猛

●一度に三合のメシを食う

蜷川 なんだよ、お前にだまされて、ついに二回目かよ(笑)。まずいなあ。俺はこういう時期はだめなんだよ、何もしてない時は。前の時は神経がビリビリあちこちに張ってたからさ、一方的に饒舌になれたんだけど、こういう芝居と芝居との間っていうのは「俺の人生じゃない」、みたいに思えるわけ。

山口 でも芝居の最中は、こういう時間がほしいと思うわけでしょう。

蜷川 そうそう(笑)。

山口 困った性格ですね。

蜷川 「二日休みてえな」とか、「人の顔見るのもいやだ」とか言ってる。遠藤ミチロウとの公演で、60人ぐらいメシ食ってるシーンがあったでしょ。あれなんか、自分でウウウって、おどろいて、帰ってきたね。

山口 でも、あのおどろきは、なかなかシヨッキングだったですね。

蜷川 あれは、近年ないよね。

山口 本当? よかった。あのシーンだけは。

蜷川 うるせえ、バカヤロ(笑)。あれは、わりと早く思いついていた。やってみたら感動的だったよ、二人で三合メシ食っちゃったっていうのがいて。

山口 芝居やってる最中?

蜷川 そう。演劇の空間といたらね、普通に食べてる速度だと、一生懸命食べているよう

に見えないわけだ。「手数を増やせ、回数を多くしろ」って言って、少ないと「嘘つけ、このやろ(う)」。あいつら「ワワワ、ワワワ」って。それで三合だつてよ(笑)。初日が開いた時に差し入れたのね。ばくが買つてさ、稲荷寿司とコロケ。そしたら残つてやがんの。当たり前だね。てめえらさ、さんざん食った後なんでもの(笑)。

山口 遠藤ミチロウって、スターリン時代を思い出すとすごかったけど、今回は抑えるように言っただけです。

蜷川 最近やらないんだって、豚の首とかは。大体、そういうの限界あるでしょ。それに、俺にとっちゃね、あの劇場を失いたくないんだ。つまりさ、水ジャボジャボってことになると、次に借りられないわけだから。だから俺はさ、客が興奮して、カカトのある靴でプールに入って来たらぶつとばせ、という合図だけは決めてたわけ。俺達はこのでやんなきゃならないんだから。通りすがりのガキに、プールに穴あけられて、床をボコボコにされて、水びたしになったって、弁償する金なんかないんだから。そんなことされないようにしろ、って言った。そういうブレイキはかけ

たよ。

山口 女の子が胸を出さないというの?

蜷川 いや、「出してもいいですよ」なんて言うんだよね、あいつら。でも、出してもインパクトねえしな(笑)。

山口 インパクトね。

蜷川 もう、やることもだんだん無くなってくるなあ。でも、無い無いと思いつながら、時々あいう違うものが、違う組み合わせによって出るから。

山口 遠藤ミチロウというのは、なかなかの役者ですね。

蜷川 面白かったね。ちょっと違うね、やっぱり。だから時々、あいう強烈な刺激のある人とやるというのはね。それで、やはり何かって言うとき、歌に負けたくない、ただそれだけだよ。だって音量にしろ、凄かったらろ。セリフは無いわけだし、どうやったら芝居が勝つのかって、そればかり考えていたから、何日も何日も「人数を出すのは当たり前だけど、ただ出したんじゃダメだな。何かねえかな、ねえかな」って、それだけを考えるわけね。負けたくない、負けたくないって。

山口 最近、あんまりそういうこと無かったでしょう。

蜷川 なかったね。

山口 そういう意味では面白かった。芝居の部分はちよつとつらい所があったけど。

蜷川 (笑)。お前はね、大体、演劇憎悪だよ。お前は状況劇場に居たつてことから発する演劇憎悪があるから、演劇の格好をしていると憎悪したくなるんだね。

(40ページにつづく)



photo・宮内誠



朝倉摂 Visual Performance 2

階段狂

蜷川幸雄・演出「オイディプス王」



photo・宮信加奈江



帝国劇場「ハムレット」

あたしは、昔から映画が大好きで、その中でも、エイゼンシュタインの「戦艦ポチョムキン」は何十回も見て、「戦艦ポチョムキン」上映委員会」を、友達と一緒に作ったほどだったのね。一番感動したのは、やはり、あのラストのオデッサ・シーン。モンタージュ理論の教科書のようなシーンだけど、あそここの階段ね。だから、階段というところを思い出すのです。

だからといって、意識的に再現しようとか、そういうことではないけれども、舞台美術を始めてから、何となく階段ということが頭にあったんでしょうね。階段というのは、登っていく間に、高さによって風景が色々変わる。そういうのに興味があるんですね。とりわけ蜷川さんと仕事を一緒にするようになって、あの人もどういわけか階段が好きだから、二人で話すとなんとか「階段にしようか」ってなっちゃう。

一番、それが生かされたのは「ハムレット」でしょう。舞台を全部、階段で埋め尽くしてしまっただけ。そうやって、階段ばかり造っていると、本願寺の階段にしても、そこに音からあるものなだけで、舞台にしてみようと、何となくあたしの階段のように見えてしまうから不思議ですね。

ただ、舞台上の階段というのは、作品や劇団によっても、細かいところで様々に違う。普通は、蹴上げ七寸の蹴込み八寸というのが標準です。七寸というのは、人間の肩の幅より標準の高さなの。踏み面は、一尺の蹴込みが、大変に歩きやすい。たとえば、昔の着物なら、一尺ないと無理です。ただ、舞台では、そうなるのと延々と長く伸びることになるから、それよりも、二寸位短くして、まあ八寸というところですか。

ただ、「夢の遊眠社」の場合には、高さを一尺位にしますよ。一尺という、普通の人は上れないし、そんなことをしたら、演出家や役者に怒鳴りつけられますよ。でも、あそこは、飛んだり、跳ねたり、そういうことを苦にしませんからね。

逆に、古典物、特に日本の着物を使う場合には、着物をひきずるでしょう。だから、高さを低くして、五寸が標準寸法ね。しかも、踏み面も、前に言ったように、一尺位の長さ



エイゼンシュタイン「戦艦ポチョムキン」より

(インタビュー・構成 山口猛)



イラスト・朝倉摂

■ 劇団「第三舞台」第16回公演・結成5周年と1ヵ月記念公演

スワン・ソングが聴こえる場所

「プラスチックの白夜に踊れば」改メ

作・演出——鴻上尚史

Photo・塩坂芳樹

第三舞台の明るいホリゾントは、手のつけられない絶望感の裏返しなのだろうか。

絶え間ない笑いとギャグは、不安だけを増幅し、語り捨てられる幾万の言葉は、決して語られないいくつかの言葉を浮かび上がらせる。

もしかしたら、スワン・ソングは、遺書という名の、人類へのラブレターなのかもしれない。



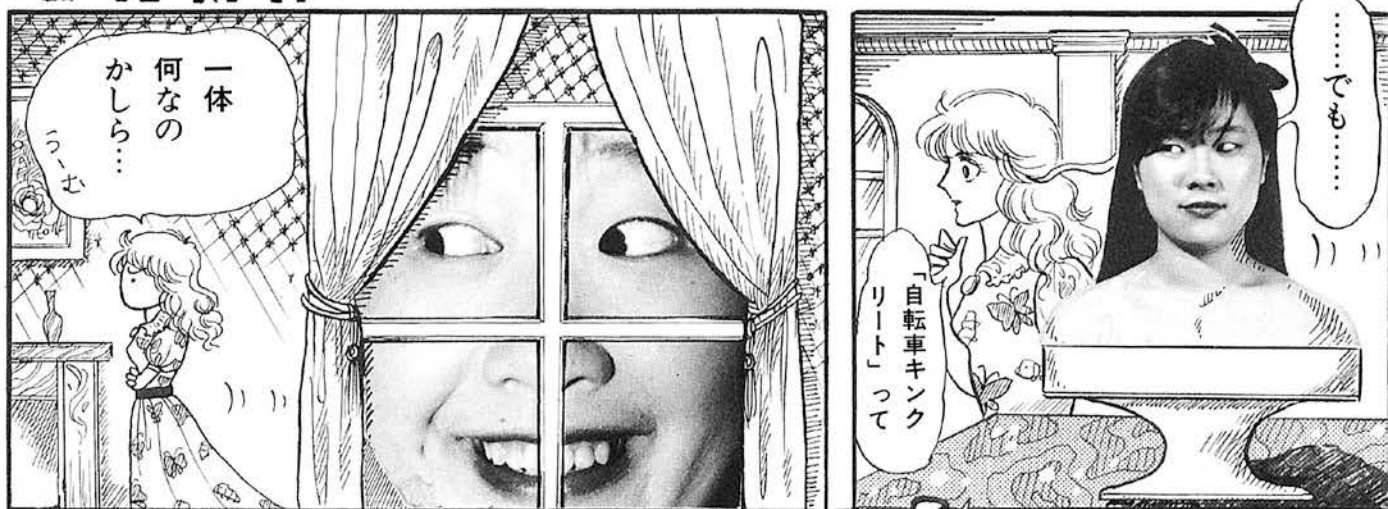
● 公演データ
6月5日～29日
下北沢・本多劇場

● キャスト
大森洋夫
小須田康人
名越寿昭
伊藤正宏
葛利夫
長野里美
山下裕子

● フレイボーイNo.26で鴻上さんがタタモンじやねーソとインタビューをされていました「演劇成金までもう一歩」「女優のオーディションのときは色気中心」「最初のころの観客はフスはかりだったが最近美人が多い」などと話していました
ちなみにそのページの広告が京成上野クリエーションでした。



第三舞台公演予定
題未定
12月3日～12月22日(予定)
池袋サンシャイン劇場
☎ 367-0292 劇団事務所



以下次号につづく



初めて読むあなたへ
周訪亜理沙は19才。平凡な女子大生だった。ある日、彼女の最愛の恋人狩野玄が「じてキン」それは自転車キンクリートの愛称という謎の言葉を日記に残して突然蒸発してしまふ。その日記から、亜理沙は自分が白血病にかかっており、しかも両親と血がつながっておらず、その上本当の母は自殺し、父は何者かによって殺され、あろうことかその容疑は玄にかかっており、かてて加えて玄とは血のつながった兄弟で、あぐくの果てに家には巨額の借金があることを知る。
ショックを受ける亜理沙。その日から「じてキン」という謎を解くための流浪の日々が始まった。多くの人に知られてはいないが、恐らくとてつもなくすばらしい「じてキン」こそが全ての問題の解決の糸口になると信じ探し求めて4年、7番目の地にやってきた亜理沙の前に不気味にそびえ立つ古城の姿がー!
「じてキン」を知りたいあなたへ...
自転車キンクリート次回公演予定
Midnight Upright
(うしみつ時のピアノ)
9月19日(金)~21日(日)
渋谷シアタージュ
作・飯島早苗
演出・鈴木裕美
☎(989)9516

●このスペースはデキト一な集団を選び、企画から製作までを全部まかせるといふページです。稀落しは、たぶん人気急上昇まちがいなし、と思われる「自転車キンクリート」に登場してもらいました。次回はどこになるか、お楽しみに! 編集部



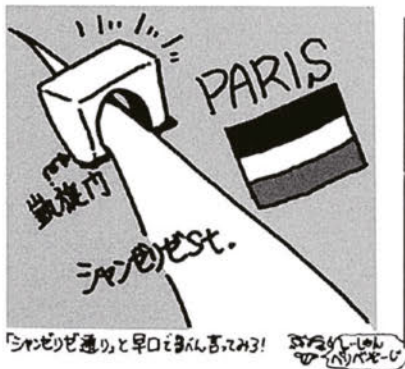
パリ・マリニイ劇場 1986年6月1日千秋楽 『ナポレオン』

芝居の作り方はオペレッタ形式で、セリフあり、歌あり、ナレーションありで、見て楽しいという感じです。売りの物は当時を再現したような絢爛豪華な宮廷のセットと衣裳で、風俗も忠実に描かれていました。

ただ、どちらかといえば大衆演劇的、一昔前の三波春夫が演じているところの固定観念のフランス版のようでもあります。客層もバスで4台、5台とやって来る団体というか、地方の人が多く、台本や歌詞もセルジュ・ラマが参加しているところなど、ますます三波春夫か、杉良太郎のようです。『演劇ぶっく』向きかどうか、ちよつと苦める点もありますが、とにかく、『派手』なので、その一点で、取り上げてみました。上演時間は3時間、出演者は30人くらいでした。



シャンゼリゼ通りに面した公園にある「マリニイ劇場」は、一〇〇〇人を収容できる大きな由緒ある劇場ですが、そこで足かけ四年におよぶロングランを続けていた『ナポレオン』がこのほど千秋楽を迎えました。なにしろフランスの英雄ナポレオンの生涯を描いているうえに、主役のセルジュ・ラマという人気歌手の風貌がナポレオンに似ているので、連日ほぼ満員という状態でした。



●撮影・取材：カダランス

●セルジュ・ラマ
一九四三年二月ポルドー生
父親はオペレッタの歌手で、幼い時、一家でパリに出る。父親が出演しているレブニイ劇場の楽屋口から、向い側にあるオランピア劇場をながめ、セルジュ少年が、「いつか、この看板スターになつてやる」と誓ったというエピソードは有名。一九六四年、兵役終了後、歌手としてデビュー。人気の出発点一九六五年、同乗の二人は即死というたいへんな交通事故で重傷を負う。二年後カムバック一九七三年、灰色の途」が大ヒット。この年オランピア劇場にも看板として出演を果たす。



Photo 1985年度同公演より

オーストリア・ブレゲンツ音楽祭 湖上ステージ「魔笛」 W.A.モーツァルト 作



●陽が落ちていった湖の上に、対岸の灯が映る頃、眼前の浮島にそびえる迫りものの岩山は、まだ静まりかえっている。やがてモーツァルトの『魔笛』の序曲が、島の中央のオーケストラ・ピットで始まり、水を渡り階段状の客席へと立ち昇ってゆく。オペラの開幕だ。

●ブレゲンツはオーストリアの西の端、ボデン湖畔にある夏のリゾート地で、ヨーロッパ各地からの観光客で賑わう。

七月から八月にかけて祝祭劇場で開催される音楽祭は、四〇年の歴史を持つが、なんとこれも見どころは、世界最大といわれる湖上ステージでのオペラやミュージカル公演で、一九八五年はオペラ『魔笛』が好評を博し、今年も連続上演ということになった。

野外で行われる演劇のスケールの大きさを観客を驚かせてくれるのが、オーストリア・ブレゲンツの湖上ステージである。ここでは湖に浮かぶ島の上がまるごとオペラの世界になってしまう。終演後の豪華な花火といえ、エンターテインメントと呼ぶにふさわしいダイナミックな舞台である。

1986年7月23日～8月23日上演予定
ブレゲンツ音楽祭が含まれているツアー
7月25日～8月4日(11日間)
8月2日～8月12日(11日間)
8月15日～8月27日(13日間)
音楽祭之友社事業部
☎03-235-2111代、2115直

●オーストリアには、もう一ヶ所、東の端ノイジードラー湖畔の街メルヒツシュにも湖上ステージがあり、野外オペラとしては古代ローマ遺跡が有名なイタリアと、面白い対照をなしている。

●モーツァルトが、オペラ『魔笛』の中で主人公連に象徴させている「火・水・大気・大地」は、その全てがこの湖上ステージにあり、時代も場所も架空のこのオペラの幻想性は、湖上でこそ際立っている。

そして、終演後打ち上げられる花火は、それまで演じられていた物語の残像をふき飛ばすように華やかに、しかし夢のはかなさをそのままに、造りものの岩肌を照らしながら、真夏の夜空に消えてゆくのだ。

するすると湖上を泳いでくる大きな蛇のカヌー(デイズニランドみたい)。そびえ立つ岩から鋭く落ちる神の眼光の様な光。魔の山。コロスや奴隷たちの持つあかあかとした松明。さざ波の立つ湖上に乱反射する炎とレーザー光線。愛と試練の物語は、大きな浮島のあちこちに場所を移して進み、大合唱とともに、クライマックスを迎える。

ゴールデン・ウィンドウズ

演出・ロバート・ウィルソン

THE GOLDEN WINDOWS

ヘロバート・ウィルソン by 田上節朗

一九六五年以来、演劇、オペラ、ダンス、フィルム、ビデオなどジャンルの枠を超えて活躍し、イヨネスコが「アメリカの最も重要なドラマ作家」と呼んだロバート・ウィルソン。大規模で総合的なパフォーマンスを創作することで人気の高い作家である。

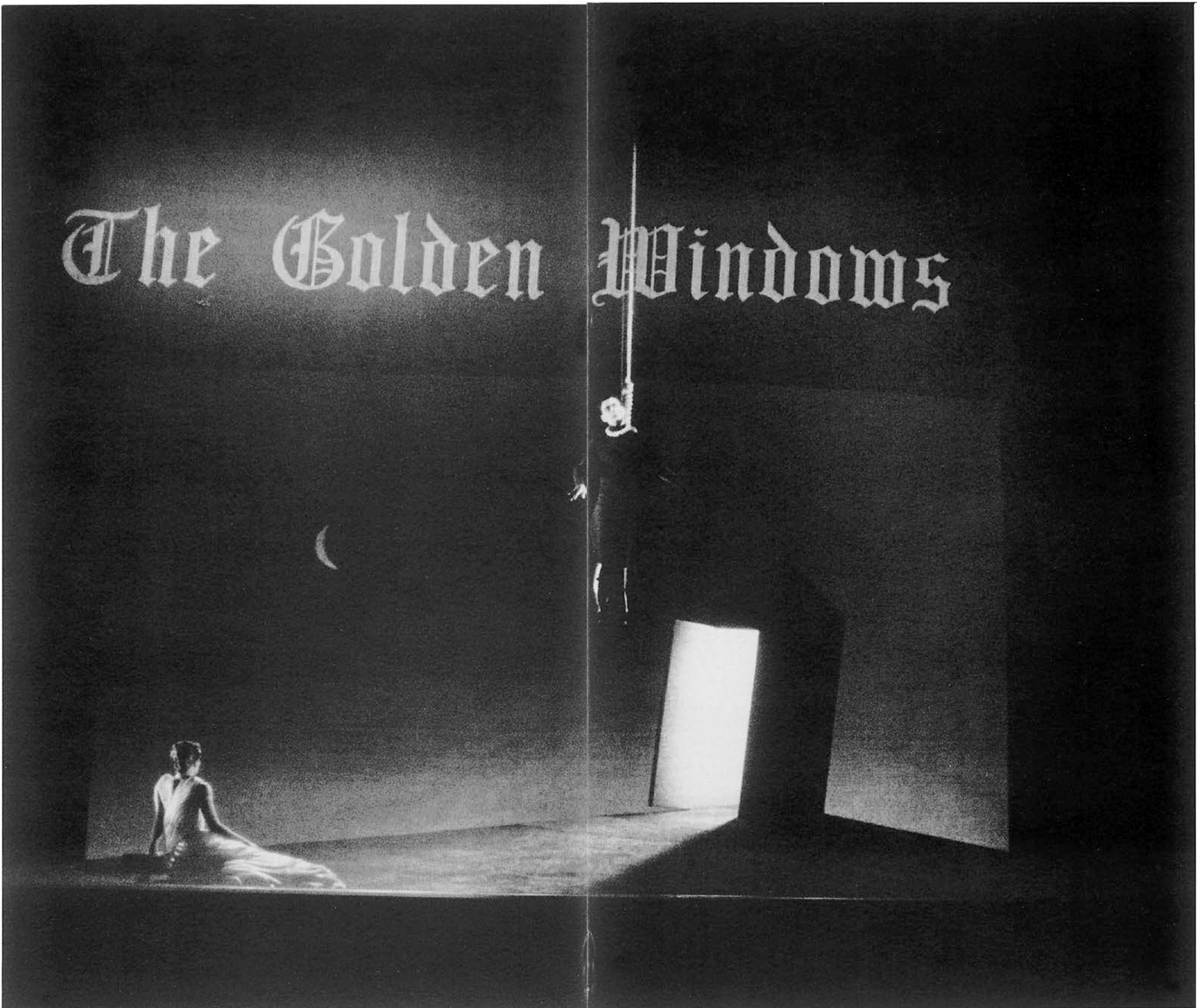


Photo by Johan Elbers

彼の代表作は何と言っても「アイシシュタイン・オンザ・ビーチ」であろう。

これは音楽のフィリップ・グラス、ダンスのルシнда・チャイルズらと共に作ったオペラで、一九七六年の初演のあと、ほとんど伝説と化していたのだが、八四年暮れに、NYのブルックリン・アカデミー・オブ・ミュージック(BAM)で一部改変されて再演された。休憩なしで四時間にも及ぶ作品はミニマリズムの集大成とも言えるもので、フィリップ・グラスの纏綿と続くミニマル音楽に乗って、言葉、ダンスともに執拗なほどにくり返しが続いていく。そうして醸し出される幻想的な雰囲気の中から「科学と人間の夢」とも言ふべきテーマが浮かび上がってくる。

さて一年後にやはり同じBAMでロバート・ウィルソンは「ゴールデン・ウィンドウズ」という劇を公演した。これは登場人物四人という彼にしては小規模なもので、八二年にミュンヘンで初演したものを英語に改作したものである。

冒険に出た少年が金色の光のめれ出る家を見つけて入っていくとそれは我が家であった。という同名の童話をもとに作ったというこのゴールデン・ウィンドウズ、舞台では星空の背景の前に象徴的な小さな家が立っている。二組のカップルの極端に抑制された動きに、電氣的に処理されたセリフがマルチ・スピーカーから客席をとり囲む。幻想的な大人の夢を再現したとも言える、知的でクールな作品で、特に照明の効果はすばらしいものであった。

さてロバート・ウィルソンの近年の話題の連作はオペラ「シヴィル・ウォーズ」である。これまで部分的にはロッテルダム(83)、ローマ(84)、アメリカのミネアポリス(84)やケンブリッジ(85)で、フィリップ・グラスやデイヴィッド・パーンなどの音楽を使って上演されてきたのだが、完全な作品としては今年九月にテキサス大学オースチンで初めて発表される予定である。これは上演時間九時間にも及ぶ見込みだという。

ラスト・フランケンシュタイン

作・演出 川村 毅

6月13・29日 下北沢 ザ・スズナリ



Photo・水田喜博

F月U日

眠りが浅い。薄っぺらい睡眠をぐだぐだと続けている。へ新なる黒死病」と命名される現在の伝染病とは、いかなる貌でもって私達の眼前に現われるのだろうか。

それは新種の性病だろうか。エイズに続く第三の性病。それは性器と脳中枢を犯してしまう。その名は「カルマシオン」。「カルマシオン」にかかった者の性器はヨーカンのように柔らかくなり、触れると崩れ去り、夢と現実の境がつかなくなる。

しかし性病にはまだどこか救いがある。そこにはセックスが介在する。愛の不毛と不毛の愛が見え隠れする。今回はそれは避けたい。「ラスト・フランケンシュタイン」とは純粋な愛情至上主義のドラマとして存在し、超人類がエリザベスを想うその内面はどこかプラトニック的恋愛である。

R月A日

はつきり言って「第三エロチカ」の舞台とはパワフルでもなく、アナキーでもなく、過激でもない。フアシストと死者と老人のステージがわれらの舞台である。私は単なるスターリニストであるにすぎない。

N月K日

へ新なる黒死病」を自殺病ということにする。まんえんする自殺病。近くの者が自殺すると、それがまるで伝染したかのように次々と他の者も自殺していくという現象。純粋な

る自殺。アリバイ工作の不可能な自殺。自殺は大きな遊戯か。はたまたアリバイの無い現実への唯一のプロテストか。とにかくこの伝染病に有効な抗生物質の発見は不可能に近い。

フランケンシュタイン博士とは実は人類を救おうなどと思っていない。博士の創り出す超人類とは、ややもするとハーメルンのネズミである。



E月N日

書き上げて一週間後、岡田有希子が自殺する。「笑っていいとも」のテロップでそれを知り、ドキリとする。いやな気分がする。異様な不快さ。吐きたくなくなるような気分。眠りが浅い。

N月O日

稽古初日。役取りオーディション。そのあまりのヘタさと思かさにあ然としてしまう。

私達は数年前よりあて書きをやめて、オーディション形式にしているが、その初日はいつも落ち込む。思わぬ発見とキラリと光るものが見える時はほとんどわずか。役者という存在は不自由な人種はいない。

これから二ヶ月。先は長い。演出とは役者を自由な存在にすること……か？

O月S日

進むにつれて役者間の演技のヒエラルキーが露出する。これはいいことなのか、良くないことなのか。集団への懐疑。時折頭にもたげてくる。あまいであらうとする意志。集団論など存在しない。

A月I日

光明が見え始める。

H月O日

四谷四丁目、サンミュージック前に行く。現場を囲む人々。しゃべるでもなく、煙草を吸うわけでもなく。奇妙な光景。それは「ラスト・フランケンシュタイン」の代々木公園と十分響き合う。

U月S日

光明と不安。初恋の乙女の如く心は揺れ動き、ソウウツの波高く。

E月T日

夢の中で死者が甦り、私はそのゾンビに向けて頭部を狙って斧を打ち下ろす。これを私は、キタシンジユクの悪夢と名付ける。

●キャスト

深浦加奈子
有蘭芳記
海老原洋之
石井浩二郎
宮島 健
香取早月
郷田和彦
川村 毅
ほか

●「エフェメラ伝説」川村毅著

新宿書房刊 ¥2,000円
あと書きにニッポン・エンゲキ・ギョウカイにおいてはゴルゴ13でいこうと思っている、氏の信案がのっている。
○人に背を見せない。つまり他人をあまり信用しない。
○簡単に人と握手しない。
○金の話は事前にさつちりとしておく。
○どこにも属さない。
○人を要切らない。
○国籍不明。
○時間を守る。
○狙った獲物は逃さない。
もちろん「コックサッカーブルース」と「エフェメラ・わが愛」の2本の戯曲がのっています。

制作ノート

『ラスト・フランケンシュタイン』 川村 毅



■銀色昆蟲館(京都) '86夏舞台

夜の魚

闇の中で語られた古い記憶片——

作・上野卓彦 演出・鮎口しげき



私達は蟲である——。役者は舞台の闇の中から湧き出て来るように、唐突に現われるのである。油断も隙もあつたもんじゃない。知らず知らずのうちに、家を崩壊させる白アリの如く、全くとんでもない奴だという気がするのである。

私達銀色昆蟲館の名は、虫を踏まないことから始まったのである。京都の山里での旗揚げの際、農家の土間にあふれる亀虫という悪臭が、私達の芝居の邪魔をするのであつた。踏んだら最後、芝居は中断。しばしの換気タイムなしには息も出来ないのだ。踏んではいけない、踏んではいけない!。そして私達の独自の肉体表現が生まれた——は定かではないが、圧倒的に連中が主役であつたことは確かかなようである。

私達は蟲である——。油断も隙もなく現われ、生来の体質である驚かせ屋の性格を発揮し、一夜の夢『悪夢』を提供しよう。因みに家はすでに崩壊している、というのが私達の背景である。

劇団銀色昆蟲館 一九八六年夏舞台「夜の魚——闇の中で語られた古い記憶片——」という芝居は、西部講堂の深い闇から差し出された一本の白い脚である。心地良い闇に心沈ませて、川床で昏睡する魚の物語を聞いて頂きたい。

上野 卓彦 記

■劇団白髪小僧(岡崎)・東京公演

さよならジャパン 《空の賦》



Photo・青木司



6月14日・15日
京大西部講堂

■キャスト

三己婆 小川光子
寺崎京三 森井流香
羽村葉明日 コサコシヨ太
山崎満理子 ヨシダマジオ
秋篠根子 鮎口しげき
O.C.A.N. ほか

マックス 三郎、夢の力は過剰な禁物だ。僕はお前が交っていくと消えなきやいけなかったんだよ、じゃあな——。

——と言った途端、あの船の大きな汽笛が鳴り響く。

耳をつんざくような音だ。

女 (その音の中で) お船よ、お船が来たのよ、誰も乗っていない行きさきもないあのお船が、さあ三郎、あなたの出番だわ、カメラも廻っているわ、あなたが、あなたがこわすんだわ!

——汽笛の音に混じってカメラの廻る音や戦場の銃声が入ってくる。「蜜の光」ががすかに聴こえる——。

——と、すべての音が消え、あかりも落ち——

銀色昆蟲館公演予定
1986年冬舞台
夜猫記(よるねこき)

作・上野卓彦
11月 京大西部講堂
12月13・14日
東京・アートシアター新宿
☎075-255-0247 劇団銀色昆蟲館

4月12日・13日

京王線八幡山にてテント興行

長島 温 堀田 渉
浪野千鳥 み わ
阿木 磨 水道橋秀美
高原レイ 那加精四朗
杉 青二 龍 沙
可知世梨奈 も も

《貴種「良民」賤民」という三層の身分制度をもった土代律令体制にまでさかのぼってとらえかえすことのできる身分差別の原構造を、日本史の中で問いつめつつ、制度化された文化から排除された非人、清目(きよめ)、河原者、穢多、犬神人(いぬじん)、声聞師(しょうもんじ)、散所法師、乞食など、いろいろな呼称で蔑視された人々の、豊かな文化を問い返しながら、芝居を展開して行きたいと思っています。

白髪小僧一同
(白髪PRESSより)

連絡先

愛知県岡崎市明大寺町塚東八—
☎〇五六四—二五—一八三四
東京問合せ先・風の旅団
☎〇三—六七〇—三八二五

名古屋・笹島の夏祭りに
劇団員が芝居、その他で
参加の予定

日本最古の芝居小屋で歌舞伎興行

きわめつけ ばんずい ちようべ

極付幡隨長兵衛



写真・構成
青木 司

●出演
中村吉右衛門
澤村藤十郎
中村勘九郎
中村歌昇

国指定の重要文化財「田金毘羅大芝居」(通称金丸座)で、4月27日・28日・29日の3日間、年に一度の歌舞伎興業が打たれた。前日には町を挙げての歓迎行事「お練り」が町の中心街を二キロに渡って練り歩く。「途中、紙吹雪や、くす玉、花束で歓迎していただきますようお願いします」という実行委のお願いの成果かどうか、とにかく金丸座跡地の広場を出発した役者達一行は、行く先々で、紙吹雪は散るわ、花束は差し出されるわ、握手は数え切れず、記念写真まで撮られたりの歓迎攻め。「これがいんだよ」と、今年初参加の勘九郎に、吉右衛門が一言語りかけていた。

翌日はいよいよ本番。「開梅百物語」では、この小屋ならではの脇花道やカラ井戸を十分に使った楽しい舞台。明りの調節に、左右の窓を開閉するなど、いろんな趣向が盛りだくさん。昔ながらに棧敷で弁当を広げ、そのままでも、もう十分に楽しんでいる客は、いやが応でも盛り上がり、雰囲気は最高。

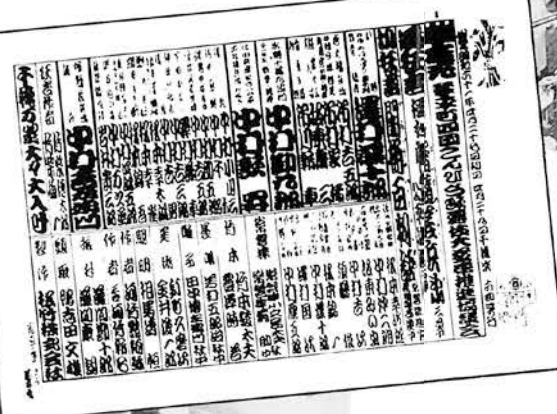
記録によると、この通称金丸座は、天保六年(一八三五年)建てられた。建築費用は、こんぴらの町の芸伎の花代をピンハネして積み立てた「不浄金」が当てられたそう。観光資源の為に、旅館が金を出し合った、という形になっている。当時も、役者たちが丸亀街道を町の入口までやってくると、人々はそれを迎え、小屋で得意の演目上演させなければ、幕が開かないのが通例だったとか。結局、今も昔も、変らぬお祭り好きの種は尽きまじ……と実感。歌舞伎の原体験をしっかりととしてしまった。

現在の小屋は、一九七七年に移築復元され、普段は見学の為に公開されている。昔のままだに芝居小屋として使われるのが年に一度とは、余りにさびしい話ではありました。

〈情報問合せ先 琴平町役場内「こんぴら歌舞伎大芝居推進協議会」〇八七七一七五・二八〇五

中村吉右衛門

インタビュー…その一……
「この小屋では、全ての客席から花道が見えるんですね。東京では残念ながら、そうはいかない事がある。私たち役者にとって、花道への出と戻りが肝心と心得てますが、その最も肝心なところが全てのお客さんから見てもらえる。これは大切な点ですね。そして、舞台がちやうど平場のお客さんの目の位置にある。役者の足元が見えるんですね。これは特に女形にとっては足元は大切です。まあ、気を抜けない、という事でもあります。2階のお客様にも声が通りますしね。こちらから、どう乗せるかと考える前に、お客様の方からとけ込んでくれるという点が、最も気に入っています。」



インタビュー…その二……

こんぴら歌舞伎大芝居運営副委員長
「この文化財を知ってもらいたい、というので始めたのですが、地元協力がいろんな形で盛り上って、これ以上の事はありません。明り取りの窓の開け閉めや、セリ上り・回り舞台の人力など、全て町の商工会の人達のボランティアです。お茶子さんも公募しましたが、東京からの参加者もいました。券ですか？四千枚売り出しましたが、前日の晩にはそれだけの行列が出来て、整理券を配ってその日はお帰りました。翌日、急いでテレビやラジオで、もう売り切れたから並ばなくてくれ」とお知らせした次第です。

そんなわけで見なくても見れない人がたくさんいるもんで、前日の「お練り」が全員総参加という事で、私が責任者になって持たれたわけです。(お練りの参加総数七万八千人)実行委調べ」

インタビュー…その三……

観劇客
「ええ、高松から来ました。行列ですか？前から2番目でした。朝7時から並んでました。ファンですか？吉右衛門さんノそれから勘九郎さん。(成駒屋さん。と別の人)東京へも見に行きますよ。とにかく、この小屋の雰囲気が入っています。」



花形若手歌舞伎「義経千本桜」

渡海屋の場
大物浦の場

「義経千本桜」の碇(いかり)知盛といえ、碇綱をぐるぐると手負の我が身に巻きつけ、碇を海に投げ込み、その重みに引つ張られて海中に没するという、なんともすまじくもカッコのいい役である。それだけに、並の役者ではやらせてもらえないこの役を、弱冠二十歳の中村橋之助が演じるというのは、やっぱりセンセーショナルなことなのだ。

歌舞伎界の中でも名門の家系に生まれた純血種とはいえず、したたかに、爽やかに、歌舞伎に情熱をぶつけるサラブレッドなのだ。



Photo・坂波真樹

中村橋之助 インタビュー

小さいけどぼくの世界

「あの一ヶ月は短かった。毎日、ああ、あと何日で終っちゃう」って数えてましたよ。今は歌舞伎をかけてる劇場自体も少ないでしょ、若手は実践の場が与えられにくいんですよ。それだけに四月は夢みたいでした。小さい世界だけどぼくのものですからね。自分が世界を動かしてるって実感がありませんでした。」

背面飛びは怖いけど

「ぼくは高所恐怖症で運動神経ゼロなんです。それが岩の上から後ろ向きにそのまま飛ぶんですから、怖いんですよ。でも、碇をこう高々と持ち上げると、ワーツと五百人のお客さんが一せいに拍手してくれる。これはめったにないことですからね。この先だって何年に一度あるかないかでしょ、気持ちだって盛り上がりつちやいますよ。」

楽な月は舞台の袖で

「他に趣味がないんですよ。なにしろ飽きっぽいし気が短い。唯一芝居だけが飽きない。小さい頃から、学校より劇場の方が好きでした。子役をしていたせいもあるけど、小学校なんて六時間目までいることは少なかった。楽屋が家みたいで、裏方さんと遊んだりね。大人ばっかりの世界だから、かわいってチャヤホヤしてくれる。嬉しさもあったみたい(笑)。それで、舞台見ているのが好きでした。」

女子高生が泣いた

「すごい負けず嫌いな。だからスポーツや勝負ごとはやりたくないです。この間の知盛でも、二十歳なんかでやらしてもらっていると、周りの「このやろう」っていう感じがすね、葛藤はありましたよ。でも、負けてたまるかですよ。それに初日開いてしばらくすると、落着いてきて周りが見えるんですよ。ぼくも経験あるけど、ずっと座っている役で眠くなるんですよ。でも、そういうのを見つけると目をじっと見たりして(笑)、真ん中は気持ちいいな、って思いつながらやってました。面白かったのは女子高生だけの貸切りの時、なにしろ出て行っても拍手もなけりや反応もない。あんまり何もないうで、よし、引き込んでやろうという気になりました。こつちがその気だと向うもだんだん座り方が変わってくるんですよ。それで最後の場面涙ポロリと泣いてくれた時は、やったあ。岩から飛び込んでひっくり返ったまんま、幕が閉まるまで拍手の音を聞いてました。」

テレビは飽きちゃう

「歌舞伎を知らないで見に来るお客さんは、演じる方も面白いですよ。だからその糸口になればと思ってテレビも出たんです。ファンは増えましたが、スタジオには飽きちゃう。早く舞台に出たいって、そればかり考えて、おかしくなりかけたくらい。半年ぐらいで、もう、作者に「早く殺してくれ、早く殺してくれ」って言うてました。まあ、芝居はともかくとして、刺激にはなりました。人間性に触れたというか、テレビの俳優さんはとてもハングリイだった。歌舞伎の役者だっていうと、周りの反応もいろいろ面白かった。歌舞伎の現場も知ってますけど、あつちの方がストリートで気持ちよかった。でも、それだけではなくて、スタジオが飽きちゃうっていうのは、季節感がないせいもあるんですよ。冷暖房完備だし。役者ってね、暑い時に厚い衣裳着てライト浴びながら、いかに涼しげにやるかと、京都の南座なんて冬は寒いんですよ。でもいかにそれを感じさせないでやるか、そういうものではない。」

残る側になりたい

「一昨年から、高校生の鑑賞教室で、ちょっと悪い役をやった時、着物をはしって、足をニョキッと出したんです。同じ年頃ですからね、恥ずかしかった。でも「カッコいい」って声がかかってね、嬉しかったですね。やっぱり同年代の人にみてほしいです。歌舞伎を分っているお客さんばかりなら、そりや楽ですよ。でもお金貰って見せるものだし、わかりやすくすることも必要だとは思っています。今の時代って、いろいろ実験的な芝居も多いでしょ。だけど、いまに元に戻るっていうか、シンプルな形になるんじゃないかな。その時に切り捨てられる側にはいたくないですね。」

中村橋之助(はしのすけ)
1965年8月生まれ、青山学院中等科卒、3歳で初舞台、1980年15歳で橋之助(三代目)襲名、昨年(1989年)から今年にかけて舞台を休んでNHK「真田太平記」に出演。

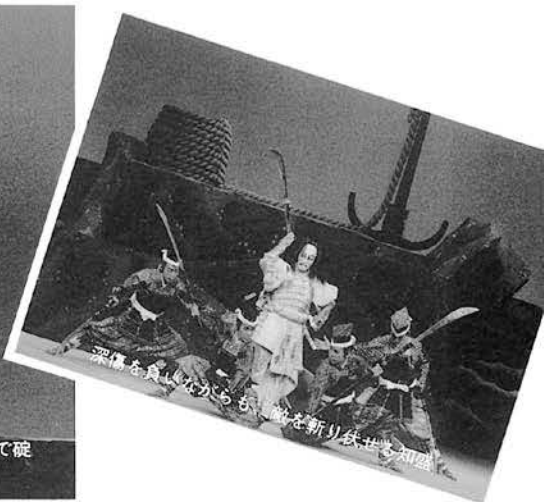


「一」背面で飛んだあとが気になる人もいます。下では二〇人ほどの人がネットを持って待ちかまえているので、危険はなさそうです。

「二」これは、「仮名手本忠臣蔵」の五段目に出てくる斧(おの)定九郎という、いつてみれば強盗殺人犯の役で、この男のためにお軽の夫・勘平さんは切腹をするはめになるのです。でも、橋之助さんはこの役が大変気に入っていたそうです。

●永谷園のCMで、去年の暮、京塚昌子さん連れられてお蔵回りをしていた橋之助さん、今年のお中元は、京塚さん入院のため、妙齢の美女、和由布子さんとの幸せな共演になりました。

●橋之助さんはミュージカルとか、他の人の芝居を見るのも好きだそうで、洋物もぜひやってみたいそうです。なかでも憧れは「アルト・ハイデルベルク」だそうです。



もはや最期と、知盛は岩の上で碇綱を我が身に巻きつける



重い碇を満身の力を込めて、頭上に持ち上げる



碇を海に投げ入れる



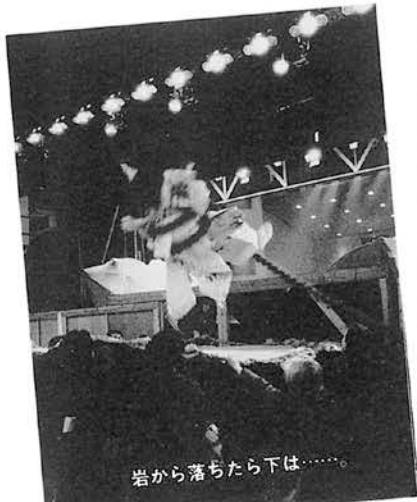
碇の重みで、綱はどんどん海中へと引き込まれてゆく



碇綱はどうとう知盛の身体をも、引きずり込もうとする



弓なりになりながら、海に向かって落ちてゆく知盛



岩から落ちたら下は……

Main Dish 「舞踏」は限りなく「死ぬこと」……。 「誰かが白い象」——三上 寛 と、岡部かびん舞踏公演「のぞら紙」



Photo. 若林玲子



岡部かびん舞踏公演
9月・10月、連舞します。
●高円寺・明石スタジオ
●前売 ¥1500 当日 ¥1700
03-312-3492
伽羅プロジェクト

この世で一番恐ろしいものは「自分の身体」である。誰でもが一番恐ろしがるのが「自分の身体」なのである。ある人が何かに恐怖をいだくとしたら、それは「自分の身体」を感じている時なのだ。だから恐ろしいものは、みんな「自分の身体」ということになる。オバケも戦争も借金取りもみんな「自分の身体」である。「自分の身体」「自分の身体」「自分の身体」「自分の身体」と唱えていけば誰でもがみな恐怖のマン中へ落ち込むわけである。

死ぬことが恐いのは「恐いことが無くなる」からなのだ。「恐ろしいものが無くなってしまふ」ということが「死」なのである。

「本当の恐怖」というのは「恐ろしいことが無くなった時に起るもの」なのだ。つまり「自分の身体」が無くなった時に感じるのが「本当の恐怖」といえよう。肉体はだから「死の入口」なのであり、肉体だけが「死」を語れるのであり、そして、「死」は「肉体の特権」ということになるだろう。だから「舞踏」は限りなく「死ぬこと」に近づいていく。いく度となく死に続け、ついにその「本当の恐怖」にぶちあたった時、初めて肉体は「死」から解放される事だろう。だから皆「本当の恐怖」を知りたいがっている。死ぬということよりも「恐い」ということが恐い」からだ。肉体としての「究極の

欲求」と呼べるものなのではないだろうか。だが舞踏は一方では「肉体としての究極の欲求」を拒絶する処から始まる。それは「さらすこと」としての意味からである。「さらす肉体」と「自分の身体」それらがどこかでつながっている、というような啓示。そのことに触発されるからだろう。あるいは「見られる」ということが「自分の身体」であるということの直感。そのことにとりつかれるからだろう。「目に見える目には見えないもの」言葉という時、それが限度だろうか。どちらにしろ登っていくべきである。宇宙とは「巨大な東北」のことなのだ。

Main Dish 自分の生理・勝ち負け・怒るぜ・ 植木 等…、芝居の構想を練る—上杉清文 これを読んで受けて立つ田口智朗の、え。

いきなり無意味なことを口にしてしまいが、たとえば、ダーティ・ダズン・プラスバンドの「セント・ジェームス病院」を聴いているうちにハイになってしまいうっかり大麻に手を出してしまうことはありそうだが、帝王のキノコによく似たタマガタケモドキとかベニテングタケを食べてからおもむろにドゥルーズ＝ガタリの『アンチ・オイディプス』を繙いたりしても、はっきりいって、バカになるのがオチであろう。

ま、どうでもいいことだが、わたしはガイジンの思想のようなものが嫌である。そうはいっても、たとえば、執拗なまでに自分の生理にこだわってしまうニーチェやバタイユやシオランのような激しいタイプは、どちらかといえば好きである。だからシオランの『四つ裂きの刑』のなかで「希望とは精神錯乱の通常の形態である」というコトバに出会ったりするとすっかりうれしくなっていて、昼間からでもカラオケのマイクを握りたくなってしまうのである。ようするに、早い話が、わたしは単なるカラオケ好きの立派な人格者なのである。

とはいえ、たかがカラオケの世界に勝ち

負けの原理を導入しようとするふとどき者がいたりして、わたしもむかつきて思わず何曲も歌ってしまったりするわけである。いや、あんたあいのないささやかなイトナミの世界だからこそ、勝った、負けたが露骨に問題になるのだろう。こんなとき、わたしはいつもあるコトバを思い出してしまうのである。かつてアルト奏者の坂田明氏がこういったものだ。

「勝負は勝ち負けではない」

思えば、思想のようなものも、芸術のようなものも、行き着くところはすべて勝ち負けである。宗教のようなものにしたところで例外ではない。たとえば、

坊主のわたし が祖と仰ぐ日蓮さんが勝た負けたが好きであった。困ったことである。

べつにだからどうだというわけではないが、わたしは勝ち負けが、いや、勝負そのものが、あまり好きではないのである。たとえば、わたしの好きな花田清輝という人がしきりに敗北することの必要を説いていたものだが、ようするに結論として、負けるが勝ち、ということはいったことだとしたなら、わたしにはなんだか情けない

ような気がしてならないのである。

したがって、「花田清輝・吉本隆明論争」というサブ・タイトルのついた『真昼の決闘』をさっそく読んでみたが、わたしは思わず、冗談はヨシダショーインシン、と呟いてしまったものであった。あのとき花田はわざと負け、勝ったと思った吉本はあゝのときのパンチがいまになって効きはじめる、すっかりダメになったとき、というのがこの本のいたかったことだとしたなら、

オレは怒るぜ とわたしはいいたい。思想を、ウンヌンする連中は過去の貴重な歴史からいったい何を学んできたのだろうか。この件に関しては、すでに植木等という人物を通じて結論が出ているはずではないのか。人生は勝ち負けではない、大事なことは、タイミングにC調に無責任だ、と。このことを忘れてもらっては困るのである。

ちなみに、わたしはいま、西鶴を読みながら、「無責任極楽一代男」という芝居の構想を練っているところなのである。

合掌

上杉 清文

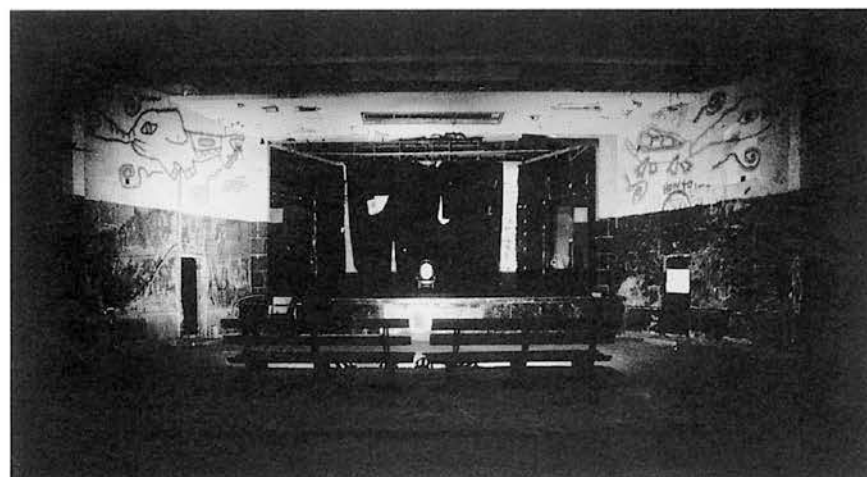
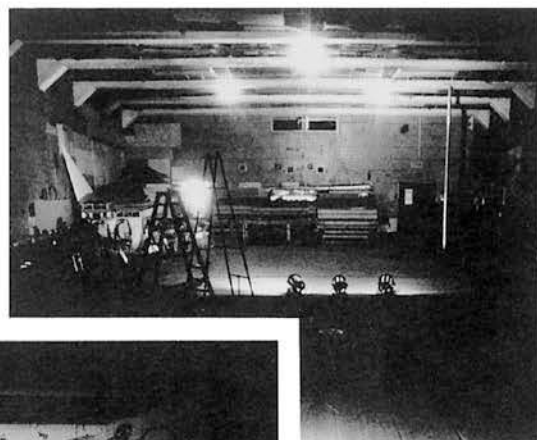


TOMORROW TAGUCHI CAMPANY1986©

国の敷地であり、

演劇の解放区である京大西部講堂……。
奇妙なコントラストを発散するこの貌を見よ。

Photo. 福島 要



西部講堂は貸ホールではなく、西部講堂連絡協議会によって自主管理・運営されている。提出された企画は加盟団体による会議にて検討され使用許可が出る。
連絡先 ☎075-751-9373

異様な貌

をして今も建ち続けている京大西部講堂……。建物は戦前のものが強度的にはまだまだ大丈夫らしい。講堂の前には広いスペースがある。

建築物は建築家の表現思想と共に、そこで何が行われるかによって、その貌を決定してゆく。人の顔や声その人の精神構造そのものであることと同じような事だ。

京大生友会(自治会)が自主管理をもちとり、1975年に京大生以外の主に芸能者たちに西部講堂連絡協議会が発足し、管理・運営が行われるようになってから、西部講堂は変貌を始めたと言える。もちろん、それ以前に京大生の表現活動の場であったことや、発見の会、大駱駝艦などの公演が行われていた事が変貌への足がかりであったことを見落す訳にはいかない。

西部講堂は今、現代社会に対して稀有の

コントラストを見せている。古っばい建物だから、ゴミゴミしているからと言うことばかりでなく、そこが国の敷地であるにもかかわらず、演劇や映画やロックなどの表現のための解放区となっているからだ。最近では、演劇などに関心のうすい学生たちは

コワがって近寄らない

と言う。まるで 魑魅魍魎が跳梁跋扈する空間と写るらしい。これはスゴイことだ。かつて新宿花園神社の漆黒の闇の中に浮び上がった紅テントは昂揚した時代と共にあった。だが西部講堂は反世界であり、時代への射手として屹立している。

状況劇場、天井桟敷、早稲田小劇場等々、かつての小劇場運動は個々の劇団として展開しながらも互いに呼応して表現世界に新しい流れをつくった。だがそれは特定の空間に象徴されると言うことではなかった。

ここに西部講堂で行われる演劇の特異性があり、建築物にまで昇華された演劇思想を生む要因があった。

日本維新派をはじめとする関西の数十の劇団は、それが固定的空間であるが故に劇場を拒み、広すぎる西部講堂のスペースと格闘し広場にはテントを張り、丸太劇場を建てるなどの工夫をしながら独自の演劇空間をつくり上げていった。もはや西部講堂でなければならず、それは反世界への道行きとして収斂していった。彼らの心が西部講堂に涵み込みその演劇的価値は西部講堂に象徴された。

寺山修司

亡きあと誰がメルクマールとなるのか、そこに西部講堂に象徴される演劇思想がありはしないか。価値は一瞬である。

報告・梅本承平

実録犯罪事件に妙なロマンが…。

『ここでも犯罪は物語化している』山崎 哲
と、『殺人物語』河口 仁

ちょっと古い話になるが、ことしの2月6日、昨年12月から行方不明になっていた尼崎市の編み物教師・永田京子さん[54]は、じつは異母弟の募[35]に殺害されていたというニュースが伝えられた。

募は1人住みの姉に「知人の妻を殺してほしい」と頼まれたが、断ると姉にののしられたのでカッとなって絞殺し、その後、死体をフェリーボートに乗せて故郷の奄美大島に運び、海岸に埋めたと供述した。事実、京子さんは同海岸から発見されたのだが、警察では、募がサラ金数社に約百万円の借金があったこと、姉の貯金通帳をもっていたことなどから金銭面でのトラブルが原因ではないかと考えたらしい。そうするとしかし、募はなぜ姉の愛人の存在をほのめかしたのか、なぜ危険をかえりみずに死体をわざわざ遠い故郷まで運んだのか、といった謎がのこってしまう。募の供述にはあながい真実が隠されているのかもしれない。

故郷を離れた遠い都会生活のなかで、この弟が姉をひどく心の頼りにしていたことは想像に難くない。事実、彼は姉のアパートによく出入りしていたという。19という年齢差を考えると、姉あるいは母親にも似た感情す

ら味わっていたかもしれない。そんな関係のなかで姉に愛人ができたならば、彼は自分の心の支えを失いそうな不安感に襲われたはずである。折しも折しも、募は自分の離婚問題でひどく不安定な状態にもあったのだ。おそらくと言うしかないが、姉に「知人の妻を殺してほしいと頼まれた」という彼の供述は、自分から姉を奪っていく愛人を葬り去りたいという、彼自身の無意識の願望が語らせた「作り話」ではないか。そしてその時、愛人を殺すのではなく姉のほうを殺し、その死体を2人の原風景がひろがる懐かしい故郷に埋めることで、彼はいつまでも姉を自分の傍らに置いておきたかったのかもしれない。いや、もうひとつの事情も考えられなくはない。

募は姉を「埋葬」した後、彼女のアクセサリなどを持ちだして、知人たちに売りさばいている。これはどう考えたって危険な行為である。35の男がやることではない。いともあっさりアシがつくではないか。そこで考えられることは、募には姉を殺したというリアリティがないのではないか、ということである。彼は姉を殺害したというリアリティを得るために、わざと危険な行動をとったのではない。なぜか白昼にアパートから死体を選びだ

し、なぜかその死体を故郷の島に運び、そしてなぜか、まるでサツを呼びよせるかのよう、に姉の貴金属を身近な人たちに売り歩く……。そうした危険な行動はすべて、自分が間違いなく犯罪者であるということを実感したいがためにとったのではないか、とも考えられるのである。彼にはたぶん、自分が姉を殺したという事実が信じられなかったのだ。その証拠に、死体を目の前にしても涙さえ零れない。この死体を故郷の海岸で眺めれば、あるいはこの死体が姉であるかどうかははっきりするかもしれない。愛する姉であるならば、涙も溢れんばかりに流れるにちがいない。そこはなにしろ、子供のころ姉に手をひかれて歩いた砂浜なのだ……。などと思ったのかもしれない。

いやはや、じつに転倒した話ではある。が、転倒しているからこそ、姉の死体をフェリーボートに乗せて運び、わざわざ故郷の海岸に埋葬するという、妙にロマンめいた犯罪がうまれてしまったように思えてならないのである。

山崎 哲





photo・青木司

10月に新作を公演の予定
大阪・屑町ミュージアム
名古屋・セツ寺スタジオ
東京・下北沢ザ・スズナリ

■ブリキの自発団公演 夜の子供 さよなら……ニジツセイキ!!

作・演出——生田萬

5月16日・5月27日
下北沢・ザ・スズナリ

「ぶりさ? はいりがすこいね! 彼女ははじめお面をかぶって出てくるんだけどね、しかし、いつまでたってもこのお面を取らないんだよ、それがおかしいなと思ってよく見てみると、これが本当の顔なんだよな」

本紙スタッフの古吉氏にぶりさについて聞
くところな事を言うんですよ。私は、スズ
ナリ劇場にはいったとたんこの事を思い出
して、彼女にそう遇する恐怖感で思わず胸

開演直後、ステージ中央のベッドに、こち
ら向きでねているお面をかぶった短身の少女
を見たとき私は思いました「これはお面をか
ぶっているのではない、これが本当の顔なん

だ、この彼女こそ片桐はいりなのだ」と、し
かし、一瞬の後、この考えがあまりである
ことに気がついたのです。それは開演後15
20分ぐらい経過したところでしょうかいさな
り男装をした本物の片桐はいりが出てきたの
です。彼女の顔ははじめに出てきた少女が
ぶっていたお面より、お面らしく、それでい
て危険なほどに富んだ表現力を秘めていたの
です。(佐々木秀隆)

■時々自動公演

もいもいもいと塩の花

時々自動の演劇公演予定

ローテクコンベンションPtメダル

7月29日(水)

中野・テルプシコール

☎982-4413劇団事務所



photo・青木 司

(突然、チチ、ハハ、バケツかぶ
りの会話を始める、しゃべる側が
聞く側にバケツをかぶせて)
チチ あの時どこへ行ってたんだ?
ハハ え、あの時……
チチ ほら昨年海水浴に行ったら、俺と
長男で水から上がってみると、お
まゑと長女が、ビーチパラソルの
ところにいなかったじゃないか。
ハハ え、ええ
チチ どこへ行ってたんだ?
ハハ 水族館よ、海岸沿いの道路の向こ
うの
チチ 水族館ねえ……

■転位・21公演

ジロさんの憂鬱

作・演出——山崎哲

4月26日・5月11日
下北沢・ザ・スズナリ



女ー ええ、毎日子供た
ちの世話をしている
だけの退屈な生活が
です。そんな生活が、
その……、ほんとう
はどんなに幸せな生
活なのかって……。
おかしいですね、
コージロさん。ええ、
ほんとうにおかし
い……。でも、あた
したちにはわからな
かったんです。たつ
たそれだけのことが
……、あなたに会う
まではです……。そ
うしてそのうちに、
あたしたちは恐くな
ったんです。コージ
ロさんを失うことが
です。あなたを失う
と……。あたしたち
のそうしたあれも、
なんだか失ってしま
いそうに思えて……。
そうなんです、コ
ージロさん。それだ
けなんです。それだ
けのことで、あたし
たち……。あなたに
……。ごめんなさい、
コージロさん……。
ごめんなさい……。

転位21公演予定
「題未定」
作・演出 山崎哲
10月27日→11月4日
本多劇場
☎3711-1872劇団事務所

■演劇実験室・万有引力公演

幻想音楽劇 草迷宮——てんてん草紙——

構成・演出・音楽——J・A・シーザー

5月3日・6日
西武渋谷店・シードホール



Photo・板波真樹

万有引力公演予定
エジンバラ国際芸術祭参加
8月17日～30日
ロンドン・マンチェスター
リバプールなどで公演
帰国後 凱旋公演の予定

死んだ母の のこした手毬唄を たずねて 草の迷宮三千里 てんてんてんてん
てん手毬に誘われて、着いた所は母地獄! 姉妹百人、百舌一羽、千の手毬
の乳しぶき、手毬の数が我恨み、国は暗黒、手は地獄、吹くや謀反の手毬歌!!
寺山修司と泉鏡花「言葉の錬金術師」のあいだで「人間には中心がいくつもある
(ミリオン・ドッペルゲンガー)」をテーマに、乳母の背中から見た祭礼の街に
いるという「女の母さがし」が語り物オペラ形式の音楽劇、てんてん草紙とし
て展開される。(草迷宮資料)



photo・青木司

秘法10番館公演
 酔・待・草
 作・演出 竹内統一郎
 9月6日～9月11日
 新宿・紀伊國屋ホール
 全国10ヶ所公演決定
 ☎945-2951劇団事務所

■劇団秘法9番館公演
 恋愛日記
 作・演出 竹内統一郎
 5月1日～25日
 鎌倉・秘法第9番館アトリエ

'86春

故F・トリュフォーに捧ぐ

手にバッグを持ったオオスギが現われる。
 失礼ですけど……
 オオスギ えっ？
 レオ オオスギさんですね。
 オオスギ ええ、そうですが、なにか？
 レオ 女は魔物でしょうか？
 オオスギ えっ！
 レオ 女は魔物でしょうか？
 オオスギ !?
 時報が午後七時を告げて、暗転。
 「アメリカの夜」のテーマミュージック
 が流れて、それをバックに、役者紹介等
 のアナウンス
 アナウンス終ると、まるで開幕を告げる
 かのように、けたたましく、電話のベル
 が鳴る。
 (上演台本より)

■田村泰二郎舞踏公演

とんぼうち

西瓜と夏とサングラス

麦藁帽子を被り、蚊帳の中で育ったイカダの少年。
 網を片手の田村泰二郎が、最後の踊りを終えてから二年。
 久々に再開した彼は、
 真つ黒な髪に覆われ、今度は、虫籠の替わりに
 オルゴールを、トンボ眼鏡の替わりに
 黒いサングラスという出で立ちだった。
 かつての少年は、いつか情熱な青年に成長
 してはいたが、それでも、舞台の西瓜を握る
 棒で叩きつけると、返りは夏の匂いに覆われ、
 ある安らぎにも似た、懐かしさに誘われるの
 である。
 山口 猛



photo・菅谷啓真

■オペラアーティストにやく座公演

べっかん、鬼

原作・台本 さねとうあきら 演出 岡村春彦

山のはぐれ鬼と盲目の里娘の愛の物語は、一見単純すぎる程に端整であるが、しかし「こんにやく座」の切り開いてきた地味は、オペラを確実に語るもの、が故、一層複雑である。それは登場する「風」達の位置のとり方にもよるのだけれど、様々に観る者の思いを喚起する。とのことである。(小松麟太郎)



こんにやく座公演予定
 オペラセロ弾きのゴーシュ
 作曲・林光 演出・加藤直
 9月26日・27日
 中央区立中央会館
 ☎412-7202劇団事務所

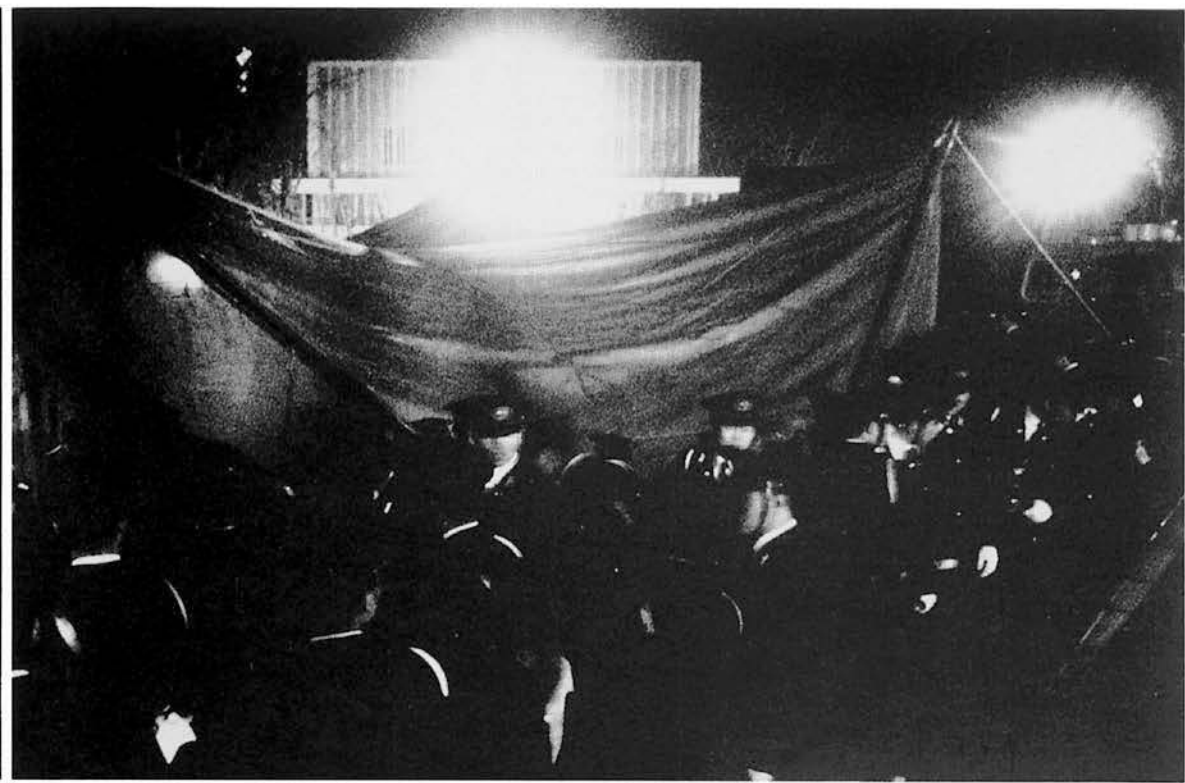


photo・坂波真樹

浜比佐子

4月27日 新宿ロフト

一九六九年の衝撃



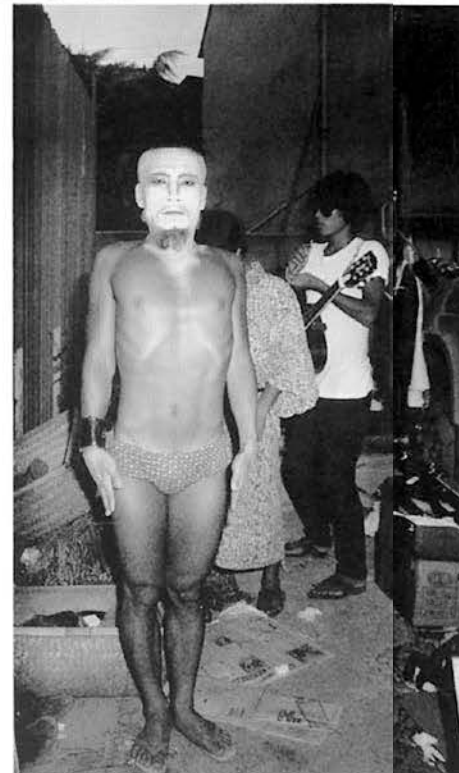
A 都の公園使用許可がおりず、無許可のままテントを立てて公演を強行。二百人の機動隊が包囲する中、芝居は最後まで上演された＝69年1月3日、新宿西口公園での状況劇場。
B 白衣姿の異形の者たちが活躍する『腰巻お仙・義理人情いろはにほへと』の舞台＝広島市で。
C 南下興行で上演された『腰巻お仙・義理人情いろはにほへと』の舞台。前列左から二人目は磨赤児、そのとなりは李礼仙、うしろに唐十郎＝広島市で。
D メーキャップの途中、直立不動の姿勢でおどけてみせる磨赤児。状況劇場きってのスターだった＝広島公園で。



状況劇場



E 宿泊は全員が紅テントの中。日が高く昇ってもまだ高いびき＝福岡市東公園で。
F 紅テントをたてる状況劇場の劇団員たち。テントは小劇場演劇のシンボルだった。
G 状況劇場の日本列島南下興行スナップ。トラックが故障してしまい、みんな懸命に後押し＝1969年夏、門司市で。(原田昭彦撮影)



扇田昭彦

一九六九年（昭和四十四年）は、小劇場演劇の流れのなかでも特に忘れがたい年だった。六〇年代前半から六八年にかけて相ついで集団を結成し、旺盛な活動を始めていた小劇場演劇の第一世代が、次々に衝撃的な舞台を発表したり、画期的な新しい段階に入っていたのが、この一九六九年という年だった。

それは穏やかさやなだらかさとは無縁の、波乱と激動の年だった。不敵な若いエネルギーが充満し、それぞれに違うやり方で、既成のあり方と自分たちの一線を果敢に超えていった時期だった。

演劇ファンから新聞の演劇担当記者になったばかりの当時の私にとって（演劇記者になったのはその前年の一九六八年だった）、この年の印象はことに鮮烈だった。大げさにいえばそれは私にはやがて一種の「黄金時代」として思い返される年となった。いかにも貧しいように激しい「黄金時代」ではあったが、このように激しく沸騰する時期にめぐりあった興奮とそれを大事な経験と思う心で、私はますます演劇の世界に傾いていった。

一九六九年は、何よりもまず、年明け早々の一月三日、状況劇場による新宿西口中央公園事件で始まった。東京都建設局公園管理緑地部の禁止を無視し、その警戒網を突破して、状況劇場が唐十郎・演出『腰巻お仙・振袖

火事の巻』の紅テント公演を同公園で強行した事件である。機動隊約二百人がテントを包囲し、上演禁止を叫ぶスピーカーの怒号とテント内の観客の野次が渦巻くなかで、しかし芝居は最後まで上演され、公演終了後、唐十郎、李礼仙、笹原茂朱の三人が都市公園法違反の現行犯で逮捕され、テントは押収された。それは曇り日のおそろしく寒い日だった。予告されている公演強行に備え、都の職員たちが公園内をすみずみまでパトロールしているなかで、どうやってテントを張るかがまず問題だった。唐十郎が採ったのは奇抜な陽動作戦である。まず、リヤカーを引く劇団員の一隊を出動させて、スクラムを組む都の職員たちと長く激しいもみあい状態に持ちこみ、管理者側がこのいさかいに気をとられているすきに、トラックに乗った別の一隊を公園の別の入口から入りこませ、闇にまぎれて紅テントをすばやくたててしまったのだ。私が唐十郎の「才能」のすごさを本当に実感したのは、この時である。管理者側の裏を見事にかいたこの作戦には、いかにも唐十郎らしいおさな心と遊びの精神があった。

むろん、逮捕は覚悟の上での上演強行だった。二百人近い観客もじつに元気がよかった。機動隊に完全に囲まれ、テントの外から警官に蹴られても、客はだれも帰らず、逆に「機動隊、帰れ！」のシュプレヒコールでやり返した。このころ、舞台と観客の間には、熱い心情の絆が感じられた。芝居を見ることで心がなやみ、場合によっては逮捕されたりしても構わないとまで観客に思わせるだけの魅

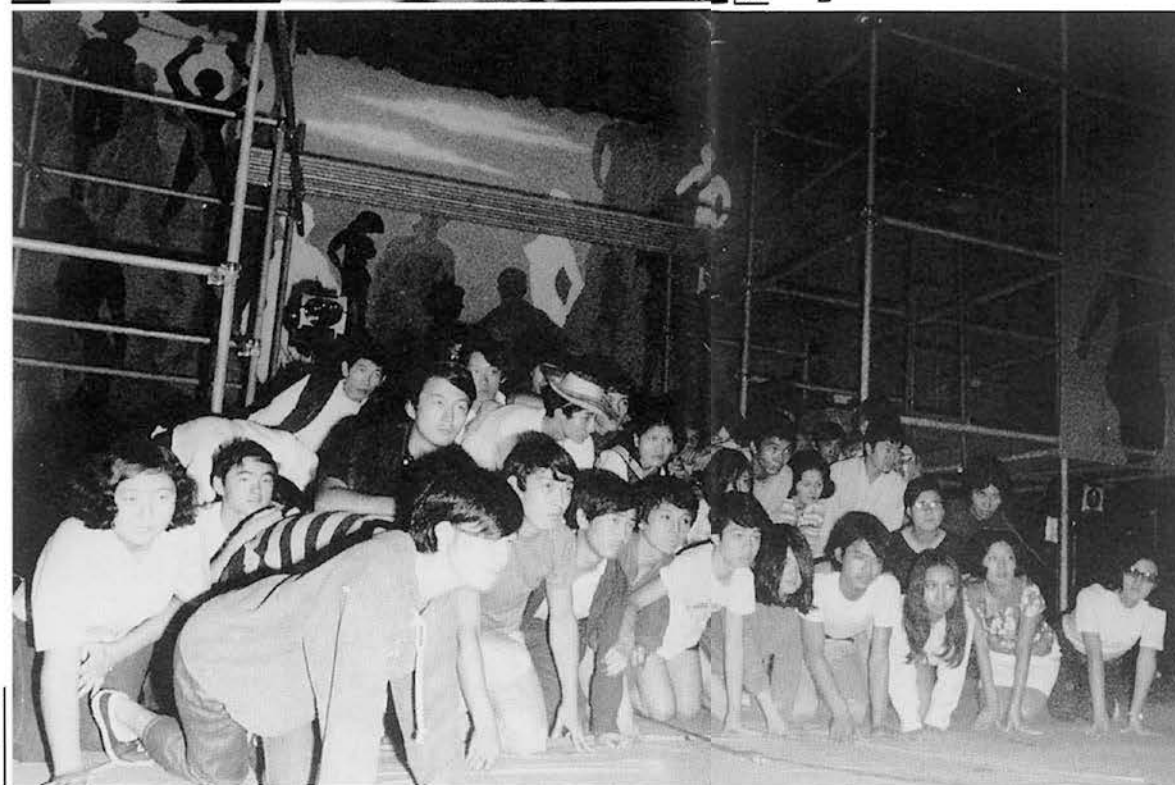


東京キッドブラザース

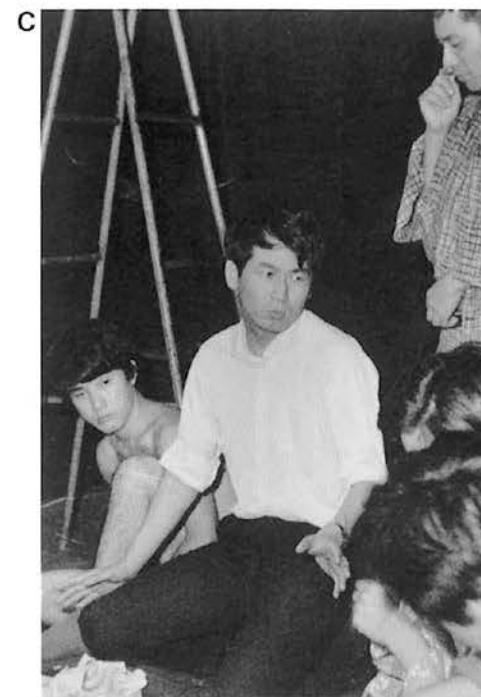
若い俳優たちの破天荒な演技に観客の爆笑がわく東京キッドブラザース公演、東由多加作・演出の『東京キッド』。和製「ヘアー」とも呼ばれた舞台だ＝1969年、東京・渋谷の小劇場「ヘアー」で。(羽永光利撮影)



天井桟敷



A 天井桟敷の寺山修司作「時代はサーカスの象にのって」は、ベトナム戦争が濃い影を落とした一連のアメリカ論ともいうべきミュージカルだった。＝1969年3月・東京・渋谷の天井桟敷館で。
B 家出少年らも出演し、若者たちの心の声を結集させた天井桟敷公演、寺山修司演出の『書を捨てよ町へ出よう』＝1968年、新宿の厚生年金会館で。



B



B



A 白石加代子(左)の春日野、吉行和子の具という配役で人気を呼んだ唐十郎作、鈴木忠志演出の早稲田小劇場公演「少女仮面」の舞台＝1969年10月、東京の早稲田小劇場で。
B 名作の断片を奇抜な形で再構成し、コラージュ劇の先駆となった早稲田小劇場公演、鈴木忠志構成・演出の『劇的なものをめぐってI』。左から二人目はのちに自殺した小野碩＝1969年4月、東京・早稲田小劇場で。
C きびしい表情で演出する30歳の鈴木忠志。唐十郎作「少女仮面」の播古が進む＝1969年9月、東京・早稲田の早稲田小劇場で。

演のこの舞台は高い評価を集め、唐十郎に第十五回岸田戯曲賞をもたらした。早稲田小劇場の上演がなかったら、もしかしたらこの受賞はなかったかもしれない。

天井桟敷が渋谷の並木橋に地下劇場「天井桟敷館」をつくり、寺山修司作、萩原朔美演出の『時代はサーカスの象にのって』で柿落としましたのも、この年である。出演者の一人、カルメン・マキの澄んだ歌声は、いまでも私の耳の底に残っている。

天井桟敷を離れた東由多加が結成した「東京キッドブラザース」が、東作・演出の手づくりミュージカル『東京キッド』で一躍脚光を浴びたのも、この年の夏である。彼らの渋谷の小劇場が「ヘアー」という名前だったのも、いかにも時代を反映している。

小劇場「ヘアー」は本当に狭い空間で、超満員の観客は肩を寄せあい、床に座りこんだり、カイコ棚のような鉄の棚の上に乗ったりして見物した。芝居の台詞というよりも、出演者自身が自分の真実を語りだしたようなその語りの衝動と新鮮さは大変なものだった。その舞台を初めて見た夜の私は、健康状態がひどく悪かったにもかかわらず、舞台上にエネルギイを吹きこまれて異常に元気になり、アパートまで走りづめに走って帰ったものである。

力が、たしかに当時の唐十郎の劇にはあったのだ。

この年の七月から九月にかけ、状況劇場は「日本列島南下興行」と呼ぶ長期の地方公演をおこなった。トラックとテントで移動しながら日本列島を南下し、沖縄を折り返し地点として東京まで北上する旅である。当時の沖縄はまだ復帰以前で、東京の劇団としては稀な沖縄公演だった。

この旅の広島・福岡間の一週間、私は状況劇場の一行に同行した。トラックの荷台に乗り、同じテントに寝泊まりしながらの旅だったが、思いがけない出来事とふしぎな経験にあふれたこの真夏の旅は、私にはほとんど至福の日々だった。厳密な日程も上演場所も決まらずに旅を続け、行く先々で場所を選んで公演を打つなどという贅沢な旅興行を、いまだれができるだろうか(拙稿「状況劇場南下す」参照、品文社「開かれた劇場」所収)。

四月には、早稲田小劇場が鈴木忠志構成・演出『劇的なものをめぐってI——ミューコの演劇教室』で、新しいドラマの領域に踏みこんだ。これはベケットの『ゴドーを待ちながら』、紅葉『金色夜叉』、別役実『象』、ロスタン『シラノ』、菊地寛『藤十郎の恋』、飯沢匡『端』などの断片を知的に再構成した舞台で、翌七〇年の『劇的なものをめぐってII——白石加代子抄』で頂点を迎えるコラージュ劇の第一段階をなす舞台だった。

この秋、唐十郎は早稲田小劇場のために秀作『少女仮面』を書きおろした。鈴木忠志のきわめて厳密な演出、白石加代子、吉行和子主

FROM READERS

□おたよりどうもありがとうございます、僕も元気です。と、云うわけで、突然だが、今号より「おたよりのコーナー」From READERSを作ったのですが、しかし、今回はべつに募集をしてたわけではないので面白い手紙が**少ない!**ので、次

□「おたより」は、演劇大好きな大學生であります。食事を減らしてまで劇場にかよひつづけています。そんな僕が今、一番見て見たいと思っているのは、スプラッター演劇というものです。これは、今流行しているスプラッタームービーのような演劇なのです。遊園地にあるお化け屋敷を演劇にしてみれば、ものすごく面白いと思います。これからは夏に向うことですし、どうか僕の願いをかなえて下さい。

（町田市 フレディ横田）

■東京スランギニョルは、わりと血がビシビシ出ます、面白いと思うよ。

□津軽は林の美味い季節となりました、いまやと春です、始めまして。見本版、拝見しましたとても美味しそうで「演劇ブック」読んでみたくなりました。出るべくして出たあーのか、

（おたより部おちやい）

□某大劇場にて、芸術の香りゆたかな演劇を観たのですが、その芸術性が最高潮にもりあがったところに、ステテコ姿のおじさんがニコニコしながら出てきました。「まっ、一パイどうだ」と酒をすすめたり「陽気にいきましょ、ブアー」とハデに笑ったりしたのです。俳優たちは、けわしい目つきでおじさんを取りこみました。するとそのおじさんは「あれ、おびでない、シシ完全におびでないね、こりやまたしつれいしました」と元氣よく、ドカンという爆発音とともに退場していきまし。私は、おもしろい笑いをしてしまいましたが、自分の笑顔を自覚しました。芸術の香りゆたかな演劇は僕にとりて、よくよく催眠剤のようです。（葛飾区 佐藤）

□明けましておめでとうございます。5月号のぶがじやの広告を見て、是非とも欲しい。と思つたのですけど、この本屋に行つてもなくつてつづつ、南河内万歳一座のファンなんです。や、いさなり載つてたからびつくりしちやつて、万歳は大阪のはこりです、なんちつて。

あー、万歳も大きくなったもんだつた

（塩田裕子）

□「こんちは。僕は、演劇大好きな大學生であります。食事を減らしてまで劇場にかよひつづけています。そんな僕が今、一番見て見たいと思っているのは、スプラッター演劇というものです。これは、今流行しているスプラッタームービーのような演劇なのです。遊園地にあるお化け屋敷を演劇にしてみれば、ものすごく面白いと思います。これからは夏に向うことですし、どうか僕の願いをかなえて下さい。」

（町田市 フレディ横田）

■東京スランギニョルは、わりと血がビシビシ出ます、面白いと思うよ。

□津軽は林の美味い季節となりました、いまやと春です、始めまして。見本版、拝見しましたとても美味しそうで「演劇ブック」読んでみたくなりました。出るべくして出たあーのか、

（おたより部おちやい）

とても勇気ある企画だったのか、ヒツトしそうな悪くない予感が北の田舎に居ても伝わって来そうです。知らないような顔張つて下さい。知人にもガンガン紹介しちやいますからそのおつもりで。

（青森市 だびよん劇場）

□創刊号、たのしく拝見いたしました。ところで私は、何年前かに蛭川幸雄さんの下で、演劇の勉強をしていたことがありました。例によつて私も物を投げられたのですが、椅子三個やハンバーガーよりもつとすこいものでした。それは、サジです……。

（横浜 井上由起子）

■トホホホ……（笑）でも蛭川さん、物をぶん投げたという、劇団員のケガの心配してるのがすこいよね。

（千葉市 亀田有紀子）

□写真から台詞は聞こえないけど、とにかくきれいな写真をいっぱい見せて下さい。一枚の絵のような舞台が好きです。期待しています。

（和歌山市 嶋ゆかり）

□しばらくは、しょうがないですが、部数が増えてきたら、定価をもう少し下げてほしいところです。

（南バードハウス）

■定価はそのままですが、2号よりページが増えました。かんべんしてやって下さい。

（新宿区 鈴木貴介）

from EDITORS

①「演劇ぶっく」を御愛読下さつておるみなさん、ありがと、私が朝日新聞で一躍有名になつた編集長の坂口真人です。僕は本来、つましい性格なので、あの日以来、「新聞、読みましたよ」など知人から云われると顔から火が出る思いです。できれば新聞などではなく「演劇ぶっく」を読んでもほしいのです。先日、旧友から、「演劇ぶっく」立ち読みしたよ、面白いね」と云われた時は、さすがに目まいがしました。

（坂口）

②窓の外は美しい六月の初夏。明るく爽やかな光に、仕事机の上に散乱する、モノクロの舞台写真は、また違った光を投げかけています。

真夏に近づくと太陽光が与える日常生活、近づく、逆照射する、別の光と闇の生成を、ふと思ひます。

光と闇が交錯し、未だ見ぬ色を発色させ、常なる混沌から、新たなパワースを構築する、発光エネルギー体の、多様な運動を期待したいと思ひます。

（市川）

③その日はたいへんお日柄が良かった。せいか、僕は「編集後記を書く職業のヒト」を辞めた。そして僕の人生とこの中における職業としてのものに對して、あまり深くない考察を行なつていた。のだが、次の日、「もう12年やうな生活したつて同じじゃん」という神のお声を聞いて、僕はまた別の「編集後記を書くヒト」になつてた。悪いが、悪いと思つた女房と子供は前へ出る？あつて、出やがった。さ、妻、さまたあ……。

（カズ）

④黄金運休に大阪、神戸と営業に歩いてまいりました。仕入の方々、色々ありがとうございました。これからもうしばらくお願いいたします。神戸の三宅さん、又、地下のジャズ喫茶で会えるのを楽しみにしています。

（飯田）

⑤永年の願望だつた、韓国へ行って来ました。もちろん、演劇・芸能の取材もして、今も、人形・仮面を百点余り撮影したり、釜山で伝統芸能を撮影したりと、取材は続いています。

その折りに、名物の「ポッサムキムチ」というのを食べた。ポッサムとは風呂敷の事。白菜の間にカキ、クリ、松の実、なしなどがぎっしりと詰まつていて、豪勢でうまい。ふむふむ、風呂敷はやはり大きい方がモン・ガいるという包めてよろしい。我が演劇ぶっくも……、いやいや、こちらはスタッフ一同の汗と涙が、ぎっしりと包みこまれていて、です。これは本当。

（青木）

⑥初めてのインタヴューで、しかも相手アメリカ人で（通訳付）あがつちやつて、あがつちやつて……。テープを起したら僕がどつてやんの、なさけねーな。ワン・ワールドの小嶋さんは写真載せたぐらいで「お嫁に行けない」なんてマジで怒つて、可愛いんだから写真載せたつていいやないか。あ。編集部宛てで彼女に「ファンレター」を出しても僕はしらないよ。

（落合）

⑦経費節約のため、社内自炊を始め、これによつて社内生活はかなりの向上を見せている。特にやもめの私にとつて白米の一膳は、生ビール、ジュッキ一杯にもかえがたいものがある。

（佐々木）

次号（第3号）8月30日発売！

●定期購読申し込みのおすすめ……… ●誌上演劇写真コンクール………

本誌を毎回確実に入手していただくために、定期購読をご利用ください。

購読料金（500円＋送料100円）×6回＝3,600円

ハガキか電話でお申し込み下さい。本誌といっしょに郵便振替用紙をお送りします。

優秀なカメラマンの作品を募ります。1枚でも組写真でも可。コメントをつけて、編集部までお寄せください。「演劇ぶっく」は新進カメラマンを応援します。

演劇ぶっく STAFF…編集：秋吉三鈴 井口敬久 梅本承平 榎原かずこ 白鳥皓 橋本克彦 飯田孝男 日吉真仁 増田孝光 山口猛 横田直寿 木村益夫 カメラ：青木司 板波真樹 神村光洋 羽永光利 デザイン：黒沢恭子 市川緑（装文社） 落合星文 手塚一弘 題字：櫻澤一美 営業：赤堀智見 岡尾秋津 八田宏一郎 藤野和樹 佐々木秀隆 山田正満 山河薫 玉城満

トクに、トクニ、バックナンバーが、どうしても欲しい方は、「演劇ぶっく社」まで御注文下さい。私がなんとかしましょう。（佐々木）